

建築 と 社会

Architecture and Society



02
2017

特集

No.1139

第23回 会員作品
“私の空間作法”

Vol. 98

日本建築協会

電100

since 1917.03.30

日本建築協会は創立100周年を迎えます

若き創造者たちへ

「第64回青年技術者顕彰」のご案内

日本建築協会では、昭和29年から「青年技術者」を表彰してきました。これは、35才以下の優秀な設計者、技術者、研究者等を対象とするもので、若手建築技術者のいわば登龍門として定着しています。

今年も、青年技術者選考委員会を設けて、これまでどおり、計画・設計・構造・設備・施工およびその他の分野について青年技術者を表彰します。

選考は有職者による選考委員会が行い、選出された方は、本会総会での表彰、「建築と社会」への掲載等を予定しています。建築界の様々な分野で活躍されている皆様の積極的なご応募をお待ちしています。

応募提出規定

1. 応募できる人は満35歳（平成29年3月30日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。
2. 原則として、すいせん者を併記する。
すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。
3. 応募分野は特定しない（建築に関するあらゆる分野を対象とする）。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、下記の所要資料を1部、本会に期日までに提出する。
4. 提出された資料は「青年技術者選考委員会」において選考する。
5. 「青年技術者選考委員会」において選出された青年技術者は本会総会において表彰し、「第64回青年技術者特集号」（平成29年6月号予定）に掲載する。

6. 提出資料

■応募用紙

本会事務局で発行、またはホームページからダウンロードして下さい。

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

A：業績資料（A3版5枚以内／書式は任意）

- ① 設計の場合——鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料
- ② 計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）——上に準じた資料
- ③ 上記以外の分野の場合——それぞれの分野にふさわしい資料

B：青年技術者の思い（A4版2枚以内／書式は任意）

上記業績資料に記載した業績において、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明をしてください。また、本人の建築、都市、環境などに対する考え方、取り組み姿勢や将来展望等について簡潔にまとめてください。文字だけでなく必要に応じて図表、写真等も用いてもかまいません。ただし、応募者本人の執筆に限りです。**この資料は、応募者の考え方を知らずで大変重要と考えていますので、十分配慮して下さい。**

7. 提出期限 平成29年3月31日（金）

8. 提出先 （一社）日本建築協会「青年技術者選考委員会」

〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31

大阪マーチャングライズ・マートビル7階

電話 06-6946-6981 FAX. 06-6946-6984

E-mail : jigyoka@aaaj.or.jp

9. 提出方法 郵送（当日消印有効）または持参

10. 青年技術者選考委員会（予定）

委員長 勝山 太郎／㈱日建設計設計部門理事副代表設計部長

委員 岸田 文夫／㈱竹中工務店開発計画本部長（西日本担当）

佐々木 栄／㈱昭和設計執行役員設計推進室室長

長尾 健／長尾健建築研究所代表

金尾 伊織／京都工芸繊維大学デザイン・建築学系准教授

山浦 晋弘／㈱安井建築設計事務所構造部長

井村 隆／清水建設㈱関西支店設備設計部副部長

小倉 良友／㈱日建設計エンジニアリング部門
設備設計グループ理事副代表設備設計部長

釘吉 敬／㈱大林組大阪本店建築事業部生産技術部長

山辻 直樹／大成建設㈱関西支店建築部購買管理室課長



日本建築協会 創立100周年

記念事業・記念式典・祝賀会のご案内

日本建築協会は2017（平成29）年3月30日に創立100周年を迎えます。

創立から100年という記念すべき年にあたり、これを意義深いものとするため、3点の「記念誌」を発行するとともに「記念事業」を開催いたしますのでご案内申し上げます。

当日は「100周年記念式典」をはじめ様々な催しを企画しており、事前申し込みが必要ですので、ご希望の方は下記の宛先へメール、ファックスなどでお申込みください。

記

公会堂見学会・記念式典・表彰式・記念講演会・祝賀会・記念パネルディスカッション

2017（平成29）年3月30日（木）11:00~20:15（予定）

於 大阪市中央公会堂 大阪市北区中之島1丁目1番27号

1. 公会堂見学会 11:00~

＜事前申込制＞定員60名（先着順）

講師と共に特別室から地下の免震部分まで見学します。

2. 100周年記念式典・表彰式

13:00~

＜ご招待者の他 自由観覧＞

会 場 大集会室

開会の辞

式 辞 日本建築協会会長

祝 辞

表彰式 創立100周年記念表彰

3. 記念講演会 14:45~

＜事前申込制＞定員1,000名（先着順）

会 場 大集会室

講 師 槇 文彦氏

（建築家）

聞き手 倉方俊輔氏

（建築史家）

4. 祝賀会 16:15~

＜参加費 5,000円 事前申込制＞

定員300名（予定）

会 場 中集会室

ビュッフェスタイルの立食パーティです。※祝賀会のみの有料の催しです。

ご注意ください！

5. 記念パネルディスカッション

「Architecture & Society / Architect in Society」18:30~

＜事前申込制＞定員1,000名（先着順）

会 場 大集会室

ゲスト 澤 秀俊（建築家 Vo Trong

Nghia Architects/ベトナム）

小室 舞（建築家 Herzog & de Meuron/香港）

森山 茜（テキスタイルデザイナー Studio Akane Moriyama/ストックホルム）

吉村有司（建築家 Ph.D. in Computer science/バルセロナ）

海外で活躍するU-35世代とともに、「建築と社会」の未来を考える

＜申込書＞

参加されるところにチェック✓を入れ必要事項を明記の上、FAX（06-6946-6984）またはメールにてお申し込みください。

内 容	チェック	ふりがな
1. 公会堂見学会		御名前 ☐ 会員 ☐ 非会員（一般）
2. 記念式典・表彰式		ご勤務先
3. 記念講演会		ご住所 〒
4. 祝賀会 ※有料5,000円		TEL FAX
5. 記念パネルディスカッション		E-mail @

＜振込先＞・口座名義 一般社団法人 日本建築協会（シャ）ニホンケンチクキョウカイ

・郵便振替口座 00910-9-39975

・りそな銀行 北浜支店（普通No,272234）

・三菱東京UFJ銀行 瓦町支店（普通No,210054）

・三井住友銀行 大阪中央支店（普通No,860034）

祝賀会参加ご希望の方は2月17日（金）までにお申し込みの上、会費のお振込みをお願いいたします。

＜お問い合わせ＞（一社）日本建築協会 TEL：06-6946-6981 メール soumu@aj.or.jp

会 告 日本建築協会

日本建築協会中国支部主催
建築工事实務講習会

- 講習会会場
（広島工業大学 広島校舎）
・広電市内電車 袋町または中電前
下車
・広島バス 平和記念公園前下車



この講習会は、建築CPD情報提供
制度プログラムです。
（公社）広島県建築士会（6単位）
（公社）日本建築家協会（6単位）

日 時 2017年**2月16**日(木)
9:30~17:00
会 場 広島工業大学 広島校舎
広島市中区中島町5-7
定 員 60名
受講料 15,000円(含テキスト代 税込)
※テキスト（改訂版）は、当日配布さ
せていただきます。

■申込方法
FAXまたは中国支部へ直接

- ①講習会名
- ②〒・住所
- ③受講者氏名（フリガナ）
- ④事業所名
- ⑤担当責任者
- ⑥電話番号・FAX番号
- ⑦受講料支払方法（銀行振込等）
- ⑧CPDを申請される方は、申請先の団
体名をお知らせ下さい。

受講料は前払制となっていますので、
併せて銀行振込等で納入して下さい。
受講料入金確認後、受講票をお送りい
たします。

■申込締切 2017年2月7日（火）
（ただし定員になり次第締切）
■受付時間 9:00~17:00
（土、日、祝除く）

■申込先
（一社）日本建築協会 中国支部
〒730-0805 広島市中区十日市1-1-9
（相生通り鷹匠ビル4階山陽工業㈱内）
TEL 082-232-6471
FAX 082-291-2233
E-mail: info@aaj-chugoku.jp
URL: http://www.aaj.or.jp

<取引銀行>
●広島銀行
本川支店（普通 3424438）
シャ）ニホンケンチクキョウカイチュウゴクシブ
一般社団法人日本建築協会中国支部

■趣旨と内容
●本講演会は、官公庁・設計事務所・
建設業をはじめ、設備・営繕など幅広
い分野の技術者を対象としたものです。
●とくに取り付きにくい施工計画と仮
設見積、現場実務の基礎である積算業
務に重点をおき、講義します。
●都市環境の変化に伴う法令・基準の
改正なども加え、技術の進歩に即応し
た知識の習得をはかります。
●「積算業務」では具体例より、その
着工準備から完成に至るまでをわかり
やすく解説します。

施工計画

井上 昇 氏

清水建設㈱広島支店
工事長

適切な施工計画を立案できることが、
建築現場技術者の必須条件です。
安全で、経済的な施工計画を解説します。

仮設見積

尾野本 悟 氏

広島工業大学
教授

仮設工事費は、一般には非常に把握し
にくい面があって、つつい単位面積
当たり、あるいは請負金比率のみで処
理されがちです。

施工計画に基づいた合理的で迅速な見
積方法を解説します。

積算業務

横段 隆弘 氏

横段建築事務所

見積業務のなかで基本となるのは、数
量積算です。この手順、基準を基本に、
より合理的で正確な積算業務を解説し
ます。

建築と社会

Architecture and Society

02 No. 1139
2017 Vol. 98

特集予告

03 04
月号 月号
… 東海支部特集
100周年記念号
(仮)

今月の表紙

新薬師寺

(奈良時代)



おおらかな屋根に漆喰の白壁が映えるシンプルな外観の建築。この建築の一番の圧巻は内部に安置される仏像群であろう。堂の中央に円形須弥壇が設置されており、その上に薬師如来坐像を中心にして十二神将が円形のフォーメーションを組んでいる。

簡素なつくりの建築はその仏像たちの背景としてある。柱や梁、化粧垂木といった建築の線が、仏像の力強さと美しさを強調している。

(多田正治)

表紙写真
企画・編集

山羊 昇
多田正治

特集： 第23回会員作品 “私の空間作法”

目次

多世帯で暮らす	新居照和&新居ヴァサンティ	10
屋根からつくられる住宅と環境	吉永規夫	11
「1.Outside -アーチの森2016-」	水谷俊博+武蔵野大学水谷研究室	12
天下茶屋 大人の基地	河合止揚	13
サージクリニックの再生	池上 明	14
相對美	岸 一	15
豊かで安らぎのある、いつも新鮮な生活の場を目指して	伊熊昌治	16
アジアリゾートなディサービス	中尾勝悦	17
遙か伊賀上野城を望む窯	河原輝雄	18
半島 改修 サロン	塚口洋之	19

連 会 告	第64回青年技術者顕彰のご案内	
載	日本建築協会創立100周年 記念事業・記念式典・祝賀会のご案内	1
	平成28年度建築工事実務講習会（中国支部）	2

作品作風	安田女子大学新1号館	4
	KOBELCO摩耶ゲストハウス	6

gallery	多視点遠近法で描く	斎藤正樹	8
---------	-----------	------	---

法令コーナー	狭あい道路の拡幅による安全・安心のまちづくり —「狭あい道路の拡幅に関する条例」の改正—	石森 健	20
--------	---	------	----

設備の頁	水俣条約への照明業界の対応について	西川 正	21
------	-------------------	------	----

建築と社会を 考える	災害復興過程から社会・建築・経済の関係を考える	紅谷昇平	22
---------------	-------------------------	------	----

Member's Forum	U-35委員会企画 「設計者のしごと」 —U-35世代の担当プロジェクトより—	活動報告	26
-------------------	--	------	----

新製品レビュー	高機能単層シート永久ワックスフリーシート 高機能複層シートワックスフリーコーティングシート	株式会社サンゲツ	28
---------	--	----------	----

information	特別展「古代ギリシャー時空を越えた旅」／パロディ、 二重の声ー日本の一九七〇年代前後左右／竹中大工道具館 企画展 漆彩讃歌ー石本愛子漆芸展ー／企画展 祈りの美〜 清水公照・平山郁夫・杉本健吉…／ピアトリクス・ポター™ 生誕150周年 ピーターラビット™展	30
-------------	---	----

月間の動き	平成28年12月	32
-------	----------	----



キャンパスの動線の核となる吹抜け空間

安田女子大学新1号館

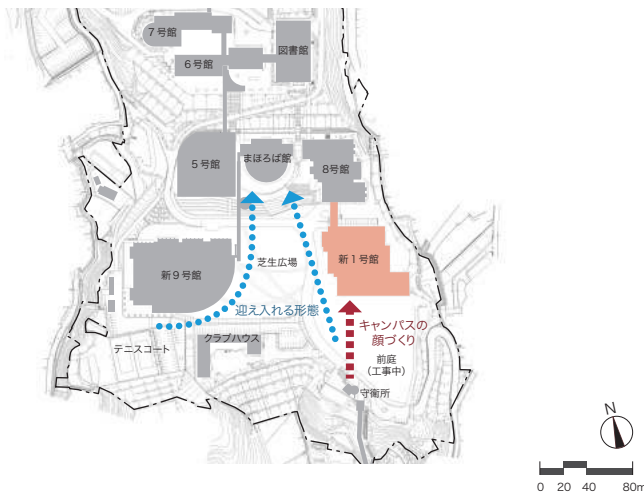
建 築 主 学校法人安田学園
 設計・監理 三菱地所設計
 施 工 清水建設広島支店

新1号館はキャンパス出入口の正面に位置する大学の顔となる校舎であり、大きな門型の構えのファサードデザインで学生を迎え入れる。平面形状はキャンパス中央の芝生広場に対し雁行する形態とし、奥へと厚みのあるキャンパス景観を形成する。キャンパス内動線の核となる新1号館の1・2階は学びの中心となるラーニング・コモンズである。建物中央に設けた上下階の連続性を作り出す5層の吹抜けと、多様な学習スタイルに対応できる場で学生の活発なアクティビティやコミュニケーションを引き出し、自発的な学習と知識の創造を促す。

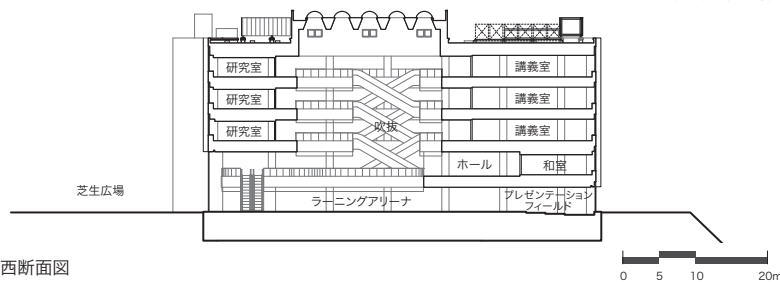
照明は全館LED照明を採用するとともに、昼光センサー等で空間の特性に合わせた制御を行っている。吹抜け部分は床吹き出しの居住域空調としている。トップライト部に換気窓を設けることで、煙突効果による重力換気を利用し快適性と省エネの両立を図った。

キャンパスの核となる校舎として、わかりやすい動線と機能的な断面計画、人材を育む学習空間の設置、環境共生建築とすることで次世代を担う学生のための学び舎となることを目指した。

(松尾利彦・内山宗幸／三菱地所設計)



配置計画図



東西断面図

所 在 地	広島県広島市安佐南区	構造規模	RC造・一部S造 地上5階・PH1階
敷地面積	123,027.26㎡	工 期	2015年4月～2016年8月
建築面積	3,541.15㎡	最 寄 駅	アストラムライン 安東駅
延床面積	13,744.87㎡	撮 影	ウエイドイカメラ



西面外観



1階風除室



ラーニングアリーナに面するグルーブスタディールーム



1階プレゼンテーションフィールド



2階グルーブスタディールーム



KOBELCO摩耶ゲストハウス

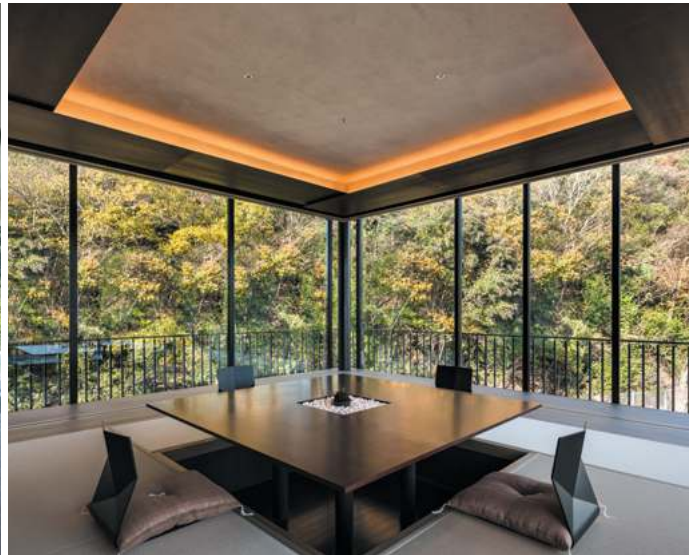
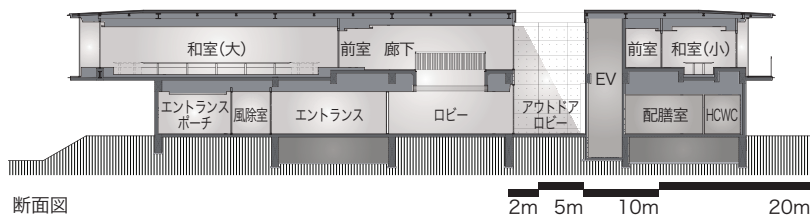
建 築 主 株式会社神戸製鋼所
 設計・監理 大林組一級建築士事務所
 施 工 大林組

摩耶山の自然と神戸市街から海へと連なる眺望を享受できるゲストハウス。山並みの中に佇む姿が迎賓空間としての品格と存在感を持つこと、そして美しい環境に溶け込む建築を目指した。

建物形状は眺望方向のフロンテージを最大限確保する為に細長形状とすることで、海へと広がる眺望と山々の緑を同時に感じることができるよう、敷地のポテンシャルを最大限に引き出す配置計画とした。

眺望をよりシークエンシャルに導く為に1階部分は重量感のあるコンクリート打放ブラスト仕上げを施し、大地に根を張る様な量塊とした。これとは対比的に2階はスチールやガラス、木質系による繊細で洗練された浮遊感をもたせた空間を乗せた。摩耶山を背景とする北側のアプローチから一歩建物に入ると、外界とは切り離された空間に転換する。アウトドアロビーとしての光庭が垣間見え、和を意識した非日常的な空間がここから連鎖していく。階段を経てゲストルームへと向かう動線は、空間の抑揚と素材感覚の移ろいを感じさせつつ、2階の和室にて一気に視界が広がるドラマチックなシークエンスを展開する。各所の仕上げに使用した様々な金属部材は、空間に異質な豊かさを付加すると共に製鉄業を営むクライアントのアイデンティティを表現するものでもある。

(近井 務・箕浦浩樹／大林組)



所在地 神戸市灘区五毛字丸山53-1、
 同字池ノ谷11-1
 敷地面積 15,289.15㎡
 建築面積 328.13㎡
 延床面積 491.23㎡
 構造規模 RC造・S造、一部SRC造 地上2階
 工期 2016年1月～2016年8月
 最寄駅 阪急神戸線 六甲駅
 撮影 浅田美浩／ヴィブラフォト

まち

建築

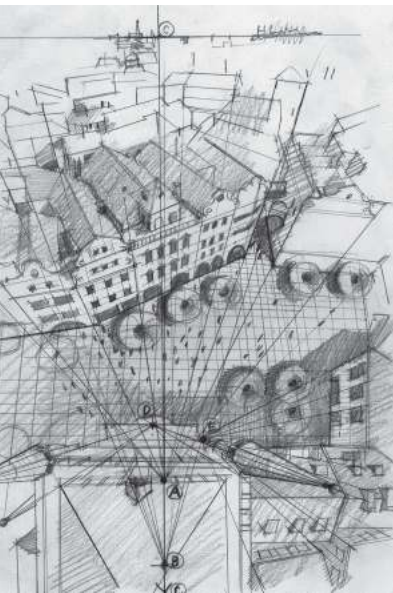
ひと

gallery

多視点遠近法 で描く

遠近法絵師

斎藤 正樹



斎藤 正樹（さいとう まさき）

1952年 東京生まれ
 1978年 武蔵野美術大学
 工芸工業デザイン科卒業
 1983年 個人事務所設立
 1988年 ㈱ディアアソシエイツ

一級建築士

各地の街づくり計画や商業活性化計画にプランナーとして関わった後、街の「将来あるべき姿」を「手描きの遠近法」で自由に表現する面白さに魅入られる。

著書：コンセプトをかたちにする
 スケッチパース 春陽堂書店

<http://www.deara.co.jp>

企画編集：増田敬彦（作品作風小委員会）

平面的な絵画の世界に奥行感を表現するのが遠近法です。

この描法はルネサンス期に透視図法として図法的に体系化されました。これを学ぶことで鳥のように空を飛び、思うままの視点を手に入れることができるようになります。

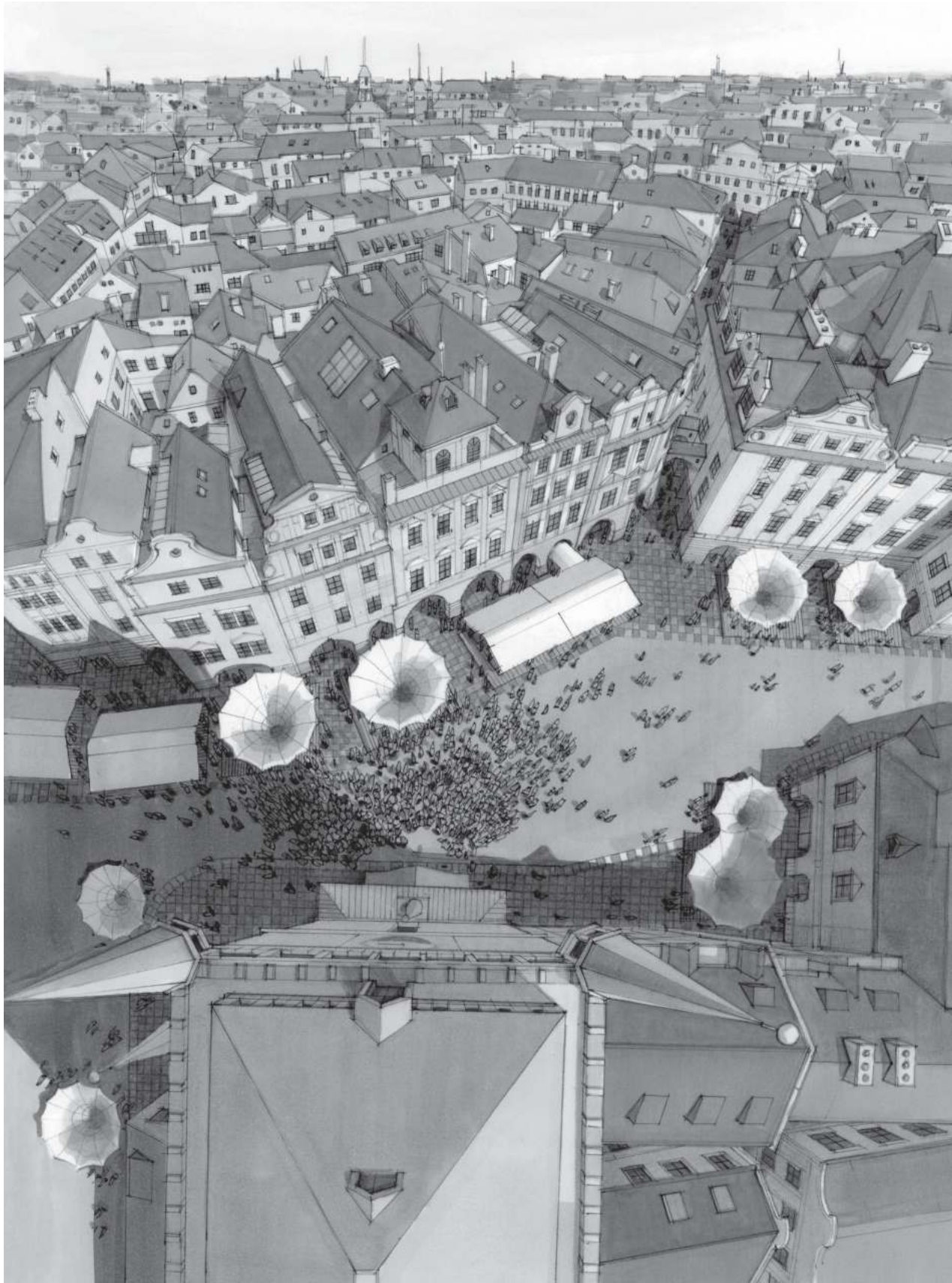
遠近法の醍醐味は鳥瞰です。街全体を俯瞰することでその街の歴史やコンセプトを一目で見ることができます。

しかしながら広域の街を表現するには従来型の透視図法では限界があります。そんなときは複数の視点を一枚の絵に再構成してみる。

これにより表現力が広がりしかも動画的効果も得ることができます。

本頁のプラハの街並みの鳥瞰はこの手法を用いて制作されています。

作者はこの手法を「多視点遠近法」と呼んでいます。



特集：第23回 日本建築協会会員作品

“私の空間作法”



“Manners of Creating Space”

様々な要請に応えようとして生み出される建築は、時代の産物だと言われます。そしてそれらは同時に利用者に対する設計者の愛情表現でもあります。ご応募いただいた力作に込められた思いを読み解き、豊かさの多様性を知り、これからの空間づくり、場所づくり、まちづくりに活かしていきたいと思ひます。会員の皆さまのますますのご活躍を願っております。

多世帯で暮らす

新居照和&新居ヴァサンティ 新居建築研究所



少子・高齢化、人口縮減化時代に入り家族の有り様が変わっている。家族各々の価値観やライフスタイルを大切にしたい熟年世代が共に暮らす家をつくる。多彩な家族構成による新しい暮らし方を生む提案でもある。

各個人の暮らしへの価値観を尊重しながら、共に暮らす楽しさや安心感、家族への思いやりがもてるような空間で、運動能力、感覚機能、心理・精神機能を豊かに働かす住空間を目指す。

テラスを挟んだ個室と広間をつなぐ長い廊下は、様々な緑の風景が楽しめ、バリアフリー化した縁側やテラスにもつながる。雨の日でも、長い廊下は格好の心身のリハビリ空間になる。

近い将来、樹木がしっかり根付き、住空間が林に包まれる。

(新居照和・ヴァサンティ)

多世帯で暮らす家

所 在 地	徳島県、石井町
施 工	アズマ建設
建 築 面 積	216.8㎡
延 床 面 積	166.5㎡
構 造 規 模	W造、地上1階
竣 工	2015年7月
撮 影	北田英治

屋根からつくられる住宅と環境

吉永規夫 Office for Environment Architecture



敷地は大阪郊外の傾斜のある住宅地で、遠方には豊かな山並みを望むことができた。売電システムのためのソーラーパネルが150枚載ることから南向きの片流れの屋根形状は設計前から決まっていた。発電のための大屋根を建物周囲への軒として広げ、下屋を付加することでボリュームの分節を行い周囲へのソーラーパネルの存在を弱めている。屋根の形状から居室の配置は決まり、室内空間は傾斜地への眺望を最大限取り込んでいる。

(吉永規夫)

ヤネでイエ

所在地	大阪府
施工	K-style
建築面積	227.03㎡
延床面積	239.73㎡
構造規模	W造、地上2階
竣工	2016年4月
撮影	絹巻 豊

「1.Outside –アーチの森2016–」

水谷俊博＋武蔵野大学水谷研究室



西東京市内にある大学のキャンパス内に計画をした木造仮設建築物の休憩スペース。全体的に緩やかなアーチ状の形状を形成し、キャンパスへ訪れた人々を迎え入れ、建築に寄り添って人々が佇む場所をうみ出している。

19mm×89mmのパイン材を、縦と横に直交させる方向へ交互に積層させることにより全体を構成。それによりアーチに正対する面は透けて繋がるサーフェスを形成し、側面側は木のテクスチャーを感じることができる壁面を形成するという、周囲の環境に対して対比的な体験ができる空間となっている。施工は完全なセルフビルドでおこない、材を積層させるという、特殊な工法を使うことなく誰でも施工に参加できる手法をとっている。

小さな材が集積する繊細な表情がキャンパスに集う人々の関係を緩やかに結び付け、休憩したり、アーチの下をくぐったり、子供たちが上によじ登ったりと、さまざまなアクティビティがうまれる場所をつくりだしている。

(水谷俊博)

「1.Outside –アーチの森2016–」

所在地	東京都西東京市
施工	武蔵野大学水谷研究室
建築面積	30.14㎡
構造規模	W造、地上1階
竣工	2016年10月
撮影	武蔵野大学水谷俊博研究室

水谷研究室制作メンバー

澤崎優希、山内由史、水野裕太、滑川美有、井上麻弥、大澤早紀、藤井海渡、末吉花帆、伊藤六芽子、久下谷結、桑野不尽丸、佐々木瞳子、福井花菜子、鈴木翔、平田基信、松本有加、前田結実、太田寛子、佐々木陽平、福岡真衣、吉田広大、道上彩映、小川裕生、藤井勉

天下茶屋 大人の基地

河合止揚 河合止揚写真事務所



築80年の長屋をシェアハウスにして再スタートしました。

入居者は、アジアの建築書籍を集めた図書室をされている方、手作りジャムのキッチンをはじめた女性、写真のギャラリーを主催する高校教師、ミシンを並べたバーを開く縫製のプロ等です。

2012年から改修を始め、屋根、電気、水道の工事は専門家に任せ、その他は入居者が各自でリフォームしています。元々、建物の中に面格子があったり壁に漬した一斗缶が貼られていた変なものに皆のセンスが混ざり合い、自由で不思議なムードになっています。久しぶりに行くと、壁面が真っ白に塗られていたり、棚が作られていたりします。

年2回、6月6日のカエルの日と11月のオープンナガヤはさながら大人の文化祭という感じで、大層盛り上がります。牛乳箱や面格子、戸袋の写真展では、大人が時を忘れて語り合い、その姿はまるで基地遊びに興じる少年のようです。

(河合止揚)

カエル ハウス

所在地	大阪市西成区
施工	Ns Home
延床面積	130㎡
撮影	河合止揚

サージクリニックの再生

池上 明 エーアイ アーキテクト スタジオ



親子継承を想定し、築30数年の有床耳鼻咽喉科医院にエレベーターを設置することを前提に全面リノベーションをしたいというご相談をいただいた。

内部のレイアウトはエレベーター設置に伴い大きく変更することになり、スケルトンにしたうえ設備更新も含め再構成することになった。受付カウンターはカーブラインを使い、待合・エントランス・EV乗場が視認しやすいよう配置した。天板を白い人工石、腰面を濃い木目で構成した受付カウンターは待合室のシンボルとして落ち着いた雰囲気を作っている。待合の床、天井にもカーブラインをあしらった空間に変化とリズムを与えている。待合のソファはオレンジ色のアクセントカラーを配し、患者さんにやさしくソフトなイメージを印象付けている。

診察ブースは濃い木目のフレームとスリガラスを組合せたパーティションで仕切っている。木目とスリガラスの組み合わせが落ち着いた雰囲気を作り、空間に広がりや変化を感じる構成とした。

病床部も含めた大がかりなリノベーションで患者さんにやさしいサージクリニックに再生することができた。

(池上 明)

大櫛耳鼻咽喉科 はな・みみサージクリニック

所 在 地	徳島市寺島本町東
施 工	藤木工務店
延 床 面 積	573㎡
構 造 規 模	RC造、地上3階
竣 工	2016年1月
撮 影	日本アートグラフィック

相対美

岸 一 アトリエジグソー



これは閑静な住宅地にある夫婦2人のための平屋住宅である。

リビングダイニングはツーバイシックス工法の特徴を活かした大断面とし、高天井から光を取り込む開放的で落ち着いた空間とした。深い軒を出したテラスは天井と床をリビングと同じ仕上げとし、連続させることで内部空間と外部空間がより繋がるように考えた。

また、主寝室と書斎は1.5階に上げることで平屋の中に2層の空間をつくり、広い半地下収納が確保されている。

開放的な空間と自然の材料が街に溶け込みつつも、景観にアクセントを与えるひとつになることを願いたい。

(岸 一)

北九州の家

所在地	福岡県北九州市
施工	ブイホーム
建築面積	207.02㎡
延床面積	158.55㎡
構造	木造枠組壁工法
竣工	2015年5月
撮影	中井克浩

伊熊昌治 伊熊昌治建築設計事務所



様々な風景の積み重ねによって、「豊かで安らぎのある、いつも新鮮な生活の場」が創出された。

所在地	滋賀県東近江市五個荘
施工	桑原組
建築面積	3,065.86㎡
延床面積	4,763.75㎡
構造規模	RC造、地上2階
竣工	2016年2月
撮影	Forward Stroke Inc.
協力	能勢建築構造研究所 知久設備計画研究所 ランドスケープ基本計画 佐々木葉二

アジアリゾートなデイサービス

中尾勝悦 中尾総合建築設計事務所



本計画は、既存特養の調理室からのリノベーションである。

法人にとって6番目のこのデイサービスステーションは、初めてのグランドフロアでの計画である。

『サロンのような優雅で落ち着いた空間で、心のこもったホスピタリティを届けたい』との要望に、アジアリゾートの「癒し」をコンセプトにした少人数デイサービスとして応えた。シーリングファンや植物を模した欄間などを取り入れ、バリ風な黒褐色を基調としたインテリアは、シックな様相を呈している。

既存食堂との区画は、半透明なアクリル板を用いた可動式間仕切り壁とし、視線を遮るも開放的な明るい空間とし、食堂と一体になった広いスペースとして利用され、常々イベントが行われている。

(中尾勝悦・上田夏子)

ロータスデイサービス門真

所在地	大阪府門真市堂山町
施工	太平建設工業
改修面積	98.60㎡
構造規模	RC造、3階建の内1階部分
工期	2015年12月～2016年3月
撮影	高田 真・深澤恭子

遙か伊賀上野城を望む窯

河原輝雄 都窯業



現在の窯のある村、西山に出逢ってから実に60余年の歳月が流れた。私がその当時通っていた上野市立東小学校 6 年生の秋の遠足は、三重・滋賀両県にまたがる標高710mの高旗山登山だった。伊賀は寒暖の差が大きく、その日は特に霧が深くて1～2m先も見えなかった。高旗山麓、西山まできて何げなく振り返った瞬間、視界の先に白い霧の海が広がった。上空は晴れていたが街や村や畑は霧に閉ざされ、見えるのは白く輝くお城の天守閣と遠くの山々の稜線だけで、それらはまるで海に浮ぶ島のようなであった。霧の海を眺めていたのはほんの短い時間に過ぎなかったが、このときの感激が、将来この地に土地を求めたいと思うようになる。そして長い年月を経てこの村との邂逅につながる私の「邯鄲の夢」となったのである。いよいよ窯と作業場に必要土地の取得にかかる。そして'98年、初めての穴窯と小屋が竣工した。窯の上屋の柱には自然のように皮付きの檜やクヌギを使った。窯は3寸勾配で、幅は内々1m、高さ1m、煙道を含めた長さは4.5mの小さなものだった。穴窯は、焚口が原則1ヶ所、焚口から煙突とひとつつながりで、燃焼室と作品の焼成室の区別がない最も古い形式の窯である。従って余熱で温度が上がる登窯より焚くのは難しいと思う。事実10数年試行錯誤を繰り返し、1,360度まで温度を上げられるようになったのはごく最近のことである。

窯のレンガ小屋から外を見ていると御斎峠から流れ下っている谷の静寂がひろがる。見上げると桂の木が冬空に向かって精一杯枝を上げていて力強い。谷の鶯の声が聴こえるのももう間もなくだ。近づく窯の季節は、或る唐詩の一句「日暖花香山鳥啼」の世界になることだろう。

「遊行期」に向い、お城を望むこの地とやきものに出逢えた幸せに感謝しながら、松だけで焚いていく、「焼締」を究めたい。

(河原輝雄)



伊州窯

所在地	三重県伊賀市西山
施工	森奥建築
穴窯建築	大門幹男
建築面積	69.8㎡
構造規模	W造(掘って建て)
撮影	浜辺正昭

半島 改修 サロン

塚口洋之 建築半島 塚口洋之設計事務所



1971年に竣工したビルの2階会議室をサロンに改修しました。ライブやワークショップ、ヨガなどの軽い運動、ギャラリーなど、多様な活動を想定して使い手の想像力に応えるスペースを計画した。前年に完成した3階アトリエカフェと一体的に利用することで、ゆっくりとした時間を過ごすことを可能にしている。ステージは設けず、適度な広さのフラットな床とそれを取り囲む階段で極小のスタジアムとした。バックヤードに控え室と工房を現在計画中で、サロンの使い勝手をさらに高めるものとなる。木材はすべて吉野の阪口製材所に天乾の杉を用意していただいた。出来上がりは視覚、聴覚、嗅覚、触覚に対して満足度の高いものとなった。(塚口洋之)

SALON HANTO a Spoonful Of Sugar

所在地	大阪市西区新町
施工	森本建築（森本隆文）
延床面積	57.17㎡
構造規模／素材	RC造、3階／吉野杉（自然乾燥材）
竣工	2016年2月
撮影	塚口

連載 No.554

法令コーナー

狭あい道路の拡幅による安全・安心のまちづくり

―「狭あい道路の拡幅に関する条例」の改正―

石森 健

杉並区都市整備部狭あい道路整備担当課長

はじめに

東京都杉並区では、戦前、戦後初期を通じた急激な市街化により、建物が密集し、生活道路等の基盤整備が遅れたため、狭あい道路（建築基準法第42条第2項の規定により指定された道路（以下「2項道路」という。）その他幅員4m未満の道で一般交通の用に供されているもの）が多く存在している。そのため、平成元年に、このたび改正した条例の前身である「杉並区狭あい道路拡幅整備条例」を施行し、狭あい道路の拡幅を推進してきた。

しかしながら、拡幅によって後退した用地に花壇等が置かれ、災害発生時に消防車等の緊急用車両の通行ができず、その後の避難や救助もスムーズに行うことができないということや、高齢者のデイサービスの送迎車両が玄関の前につけられないといった課題が生じている。



緊急用車両の通行への支障

審議会への諮問・答申

このような状況を受け、当区では狭あい道路の拡幅整備をさらに進める際の課題について、有識者による専門的観点から審議をするため「杉並区狭あい道路拡幅整備に関する審議会」（以下「審議会」という。）を平成26年7月に設置し、次の2点について諮問した。

○私有財産である土地を道路状に整備する場合において、憲法第29条（財産権）との関係について

○条例の実効性を確保するための手法について

審議会では、区民の財産に影響があることから、7回にわたる慎重な議論が行われ、平成27年11月に審議会から答申を受けた。

答申の概要は、次の通りである。

○道路空間を確保することについて

建築基準法第42条第2項の規定は、道路中心から2m後退させ道路空間を確保することにより建築が可能としたものであり、土地の権利者に後退義務を課し、道路空間を確保させることは自明のことである。

○道路空間上での通行に支障となる物件の取り扱いについて

・後退用地に緊急用車両の通行等に支障となる物件（以下「支障物件」という。）の設置を禁止することは、公共の福祉に適合する。

・支障物件によっては、代執行による除却も可能である。

○後退部分の道路状整備について

・拡幅整備に関する事前協議を義務付け、協議に応じない場合は行政指導のうえ、氏名等の公表をすることが考えられる。

・区が公費をもって行う拡幅整備については、財産権との関係において2つの考え方がある。

①区による拡幅整備について受忍義務を課すことは、必要以上に後退部分の使用権の制約を強制することになる。

②区による拡幅整備について受忍義務を課したとしても、特別な犠牲とは言えず、憲法第29条（財産権）に抵触することはない。

○第三者委員会の設置について

・支障物件等について、中立・公平な判断を行うための第三者委員会を設置することが望まれる。

条例の改正

審議会からの答申では、拡幅された後退用地に支障物件を置くことを禁止するのは可能とする一方で、区の予算を使って行う整備の義務化に関しては、財産権の関係から、積極論と慎重論の2つの考え方が示された。

この答申を受け、当区では、まずは2項道路について、後退用地に支障物件を置くことを禁止し、災害時の道路機能を確保することとし、条例の改正に取り組んだ。

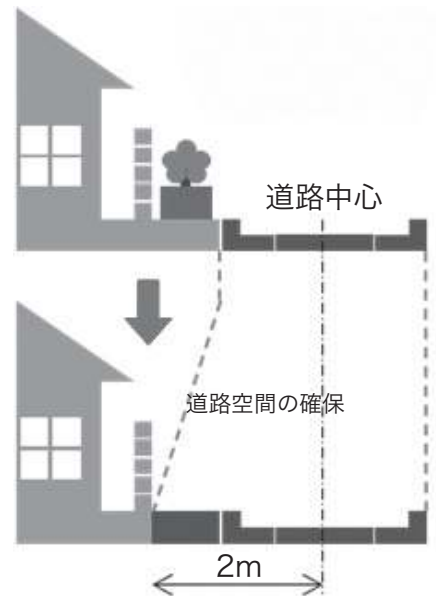
区民等の意見提出手続による意見を受け、改正条例案を作成、平成28年第2回杉並区議会定例会に上程、可決され、7月に一部施行し、平成29年1月に全面施行した。

改正条例の概要

改正した条例の主な内容は、次の通りである。

○区、区民・事業者・建築主及び土地所有者等に狭あい道路の拡幅に関する責務を規定。

○2項道路の後退用地に支障物件の設置を禁止。



支障物件イメージ

○支障物件の設置禁止規定の違反者に対し、除却の勧告や命令、命令に違反した場合の事実の公表、代執行を規定。

○拡幅の必要性が高い路線を重点整備路線に指定。

○支障物件の設置の禁止や重点整備路線の指定、狭あい道路の拡幅に関する重要な事項等について、中立・公平な判断を行う第三者機関である「狭あい道路の拡幅に関する協議会」を設置。

併せて、条例の名称を「杉並区狭あい道路の拡幅に関する条例」に変更した。

おわりに

将来、高い確率で発生が予測されている首都直下地震等の災害や火災発生時に対し、狭あい道路の拡幅は、災害に強く安全・安心に暮らせるまちの実現に向け、当区の喫緊の課題である。

改正条例施行後は、災害や火災発生時の円滑な避難、通行の確保のためにも、区民等に本事業の趣旨を十分に理解していただけるよう丁寧な説明に徹し、着実かつ迅速な事業の推進に努めている。

（いしもり たけし）

石森 健

1971年生まれ。1994年明治大学農学部農学科卒業。1994年杉並区役所入庁。

設備の頁

水俣条約への照明業界の対応について

西川 正

コイズミ照明株式会社
経営統括部 統括部長

序論

日本の都市名を冠した「水俣条約」は、一つの有害物質に限って条約が制定されたこと及びその産出から使用・廃棄に至るまでのライフサイクル全体に及ぶ規制となったことが前例のない初めての条約である。日本としては、水銀及び水銀化合物から人の健康及び環境を保護するための国際的な取り組みに積極的に貢献し、世界をリードする対応をすすめている。本論では規制対象となっている照明における対応状況を記述する。

本論

経緯

水銀は常温でも液体である唯一の金属であり気化しやすく、一度環境に排出されると分解されることなく自然界を循環する環境残留性と長距離移動性を有すると言われている。近年、工場跡地の残留水銀の処理の問題等が発生するなど、水銀汚染による人の健康及び環境への被害が顕在化してきている。

2001年に国連環境計画（UNEP）は地球規模の水銀汚染に係る活動を開始し、2013年に開催された政府間交渉委員会第5回会合（INC5）において、国際的な水銀条約に関する条文案が合意され、条約の名称が「水銀に関する水俣条約」に決定された。

同年10月熊本市及び水俣市で水銀に関する水俣条約の外交会議が開催され、約140の国と地域の政府関係者、国際機関、NGO等が出席し、条約が全会一致で採択され、92か国が条約への署名を行った。

日本ではその後、「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」と「大気汚染防止法の一部を改正する法律」を2015年6月に公布した。政省令において、水俣条約よりも3年前倒しの2018年1月1日以降を禁止期限としている製品もある。2016年2月には、条約締結の閣議決定がなされ、日本として批准することとなった。2016年11月現在、批

准国は35カ国に達し、50カ国に到達した90日後にこの条約は発効する。

水俣条約の内容

全35条からなる条約であり、目的、水銀供給の削減、国際貿易の削減、水銀添加製品の製造・輸出入の禁止、製造工程の水銀使用の削減、大気への排出や土壌・水への放出への規制、廃棄物の管理、汚染した場所の管理、資金援助、情報公開・教育訓練などからなり、禁止期限や含有量基準値を具体的に挙げて禁止や抑制を図る内容となっている。

規制となる水銀添加製品

規制の適用を受ける製品を下記に記述する。

- ・電池（現在添加製品はボタン電池のみ）
- ・スイッチ及び継電器（リレー）
- ・一般照明用のコンパクト蛍光灯ランプ、直管蛍光灯ランプ、高圧水銀蒸気ランプ、ディスプレイ用陰極蛍光灯ランプや外部電極蛍光灯ランプ
- ・駆除剤、殺生物剤、局所消毒剤
- ・化粧品（肌の美白用石鹸及びクリームを含む）
- ・非電気式計測機器（気圧計、湿度計、温度計、血圧計、圧力計など）
- ・歯科修復材料としてのアマルガム

これらの中で、水銀含有量基準値の設定のないものや基準値を超えるものの製造、輸出入が2020年12月31日以降禁止となる。

但し、アマルガムについては、途上国での有用な歯科治療材料であるため、使用量の削減を行う製品に留めている。

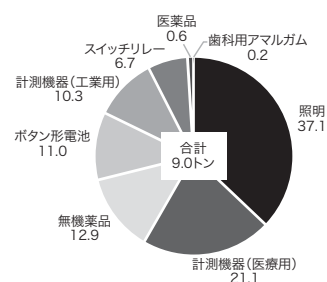


図1 日本の水銀需要
出典：環境省「水銀に関する水俣条約と日本の貢献」我が国の水銀に関するマテリアルフロー（2010年度ベース、2015年度更新）

規制ランプへの照明業界の対応

照明に関しても、水俣条約の第4条の水銀添加製品の製造、輸出入の禁止の条項に関連し、水銀含有量が基準値以上の種々の一般照明用蛍光灯ランプと、水銀含有量に関係なく一般照明用高圧水銀蒸気ランプが規制の対象となる。

業界団体である（一社）日本照明工業会会員の製造販売する一般照明用蛍光灯ランプは、すでに自主的に削減を図ってきており、基準値以下となっているため、規制開始以降も製造、輸出入が可能である。

一般照明用高圧水銀蒸気ランプについては基準値の設定がなく、全廃が求められており、メタルハライドランプや高圧ナトリウムランプ、LED照明などの代替品への交換の猶予期間を考慮し、政省令でも水俣条約同様の2020年12月31日以降を禁止としている。

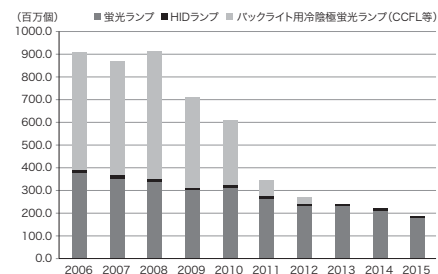


図2 水銀使用ランプの国内出荷推移
出典：経済産業省機械統計

この規制は製造や輸出入を禁止するものであり、該当ランプの継続使用、修理交換のための使用及びその販売を禁止するものではないため正しい理解が必要である。

また、法令では消費者による廃棄時の情報提供として、製造又は輸入事業者に対し水銀使用製品への水銀等の使用に関する表示等を努力義務としており、経済産業省及び環境省は表示等情報提供に関するガイドラインを策定し公開した。（一社）日本照明工業会でもそのガイドラインに従い、水銀使用ランプの適正分別・排出の確保のための表示等情報提供に関するガイドラインを制定している。このように水銀使用ランプのランプ本体等への表示を促進して行くことと、官民を挙げての適正分別回収のための仕組みの拡大と徹底が重要である。

おわりに

蛍光灯ランプも発光原理から水銀をゼロにすることはできないため、水銀含有量が基準値以下であっても、LED照明への切り替えが条約の目的である「人の健康及び環境を保護すること」に繋がる。但し、既設の照明器具の蛍光灯ランプや高圧水銀蒸気ランプをLEDランプに付け替える場合に誤った施工やランプの選定により、感電・焼損・ランプ落下などの重大な事故が発生する恐れがあるため注意が必要である。注意点については（一社）日本照明工業会のホームページに掲載されており、確認を頂きたい。また、同ホームページに水銀使用ランプの分別・回収のための情報も掲載されているため、こちらも確認頂くことをお願いする。

（にしかわ ただし）

西川 正

1984年 小泉産業株式会社 入社

2006年 コイズミ照明株式会社 分社時転籍

連載

建築
と
社会
を
考える

NO.16

連載
建築と社会を考える災害復興過程から
社会・建築・経済の
関係を考える

紅谷昇平

兵庫県立大学 防災教育研究センター
准教授 博士（工学）

紅谷昇平

1971年愛媛県生まれ。

1994年京都大学工学部建築学科卒業、1996年同大学院修士課程修了、2006年神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了、2012年同大学院経済学研究科修士課程修了。

1997年より（株）三和総合研究所（2003年UFJ信託銀行（株）出向）、2007年より人と防災未来センター、2013年より神戸大学大学院国際協力研究科での勤務を経て、2016年4月から現職。一級建築士。宅地建物取引主任者、ファイナンシャルプランナー（AFP）試験合格。

主な著書に「復興まちづくりの時代」（建築資料研究社、2006年）、「世界と日本の災害復興ガイド」（クリエイツかもがわ、2009年）、「震災復興学」（ミネルヴァ書房、2015年）など（いずれも共著）。

はじめに

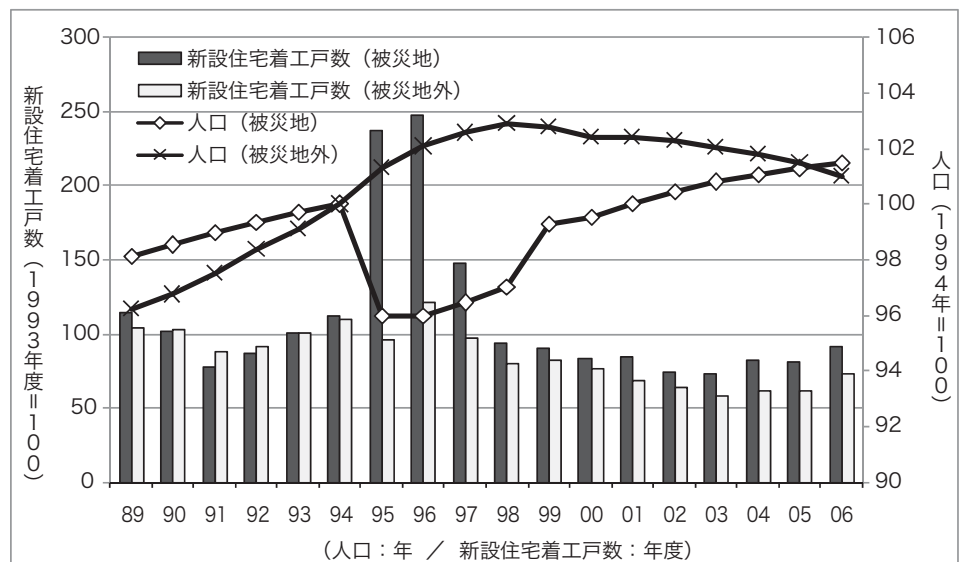
建築とは芸術や実用の両面があるが、さらに社会との関わりという視点からみると、経済的な側面も重要である。建築工事自体が大きな経済活動であり、完成した建物は施主である個人や企業、そして社会全体にとって貴重な資産となる。そして、減税等による個人住宅の新築・リフォームの誘導や特区等による都市再生・再開発の促進は、経済対策の有効な手段となっている。また建築を運用して得られた収益は、不動産証券化やJREIT等を通して、幅広く投資の対象となっている。これら経済的な側面は、建築分野というよりも経済や不動産、金融などの領域で議論されてきた。

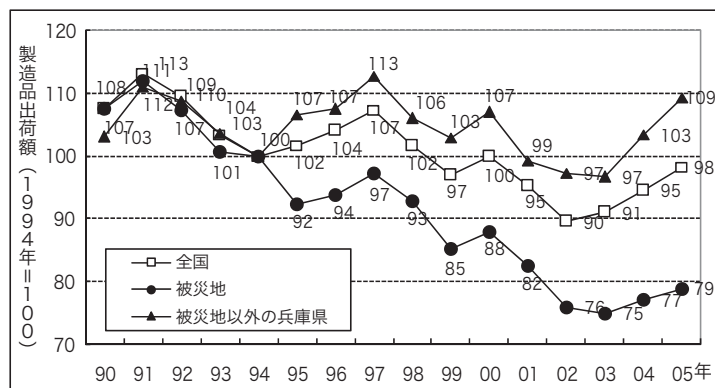
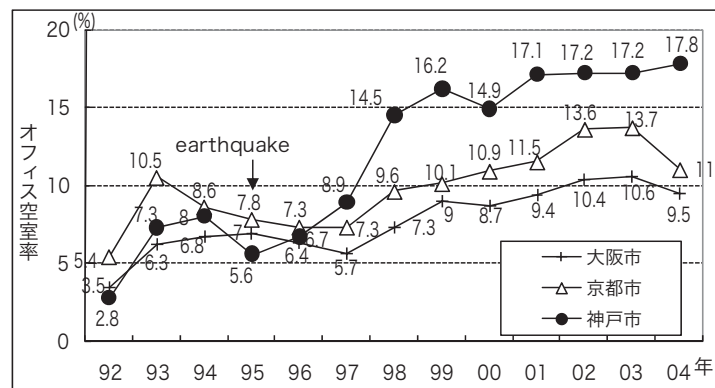
著者は、現在は防災・復興の研究・教育をしているが、元々、大学では建築・まちづくりを専攻し、その後、民間シンクタンクや信託銀行で地域開発プロジェクトの事業採算性検討や不動産投資開発・証券化等の業務などに携わってきた。これらは一見、関連性が薄いようにみえるかもしれないが、生活者や企業の行動原理やニーズ、経済的な制約条件を理解し、そこから望ましい機能とそのための空間の実現手法を検討するという点で共通する点も多い。そしてその部分こそが、大学での伝統的な建築・都市計画教育の枠組みに不足している部分だと感じている。本稿では、災害復興課程での事例を通して、建築・都市と社会・経済との関係性について紹介していきたい。

阪神・淡路大震災からの都市の復興と経済

1995年の兵庫県南部地震から22年が経つ。地震直後、壊滅的な被害を受けた被災地は、その後、震災前以上の立派な姿に復興したように見えるが、実態は複雑である。被災地（当時の災害救助法対象の10市10町）の統計データを震災の影響が強く残る約10年で分析すると、地震後、まず住宅再建が急速に進み、それに伴って人口が回復し、さらに人口と共に商業が回復する傾向が見られた。また建設業は復興需要で潤ったように思われるが、必ずしも良いことばかりではなかった。図1を見ると、地震後3年程度は新設住宅着工戸数が大幅に増加したが、地域の工務店だけで急増した新築需要に対応することは出来ず、外部の事業者が多く参入してきた。そして復興需要の後には、需要を先食いした反動による着工戸数の減少が起り、被災地の工務店にとっては厳しい経営環境となってしまった。

さらに被災地で復旧が困難だったのは製造業である。図2に示すとおり、地震の前は、全国、被災地、被災地以外の兵庫県では、同じような傾向で製造品出荷額が推移している。しかし地震後は、被災地が工場等制限法（2002年廃止）の対象地域だったこともあって被災地の製造品出荷額は減少し、被災地外との間に大きなギャップが生まれた。さらにこのギャップは縮まるどころか、時間が経つにつれて拡大している。その大きな要因は、被

図1 阪神・淡路大震災10年の新設住宅着工戸数と人口の推移¹⁾

図2 阪神・淡路大震災10年の製造品出荷額の推移¹⁾図3 阪神・淡路大震災10年のオフィスビルの空室率の推移¹⁾

災した企業が工場を再建する際、手狭な都心や交通インフラの復旧に時間のかかる被災地から、郊外の工業団地あるいは海外に移転した結果である。地価の高い阪神間や神戸市沿岸部の土地を売却することで復旧資金を確保し、内陸部の安くて広い工業団地で再建することを選んだ企業が相当数あった。

また、オフィスの空室率をみると、図3に示すとおり震災前、神戸市の空室率は京都市よりも低かった。しかし、震災後は、本社機能の被災地外移転と、被災ビルの建替によるオフィス床の過剰供給とのダブルの影響により、空室率は京都市・大阪市よりも高くなってしまった。建物の復興と都市機能の復興とは必ずしもリンクしていないこと、ニーズを超えた復興事業は逆に都市にダメージを与える可能性があることが分かる。

商業に関しては、人口の回復に伴って購買力が高まるため、地域の小売店の売上自体は時間とともに回復している。しかしながら図4に示すように、被災により移転・廃業した臨海部の工場や物流施設の跡地（特に、灘に代表される酒造業関連施設の跡地）には、その後、大型専門店やホームセンター、スーパー等の出店が相次ぎ、競争の激化で商店街などの中小事業者は大きなダメージを受けた。復興過程で、製造業から商業へと産業間を超えた被害の波及が発生したのである。

このような産業を超えた土地利用の変化の連鎖は、震災に限ったものではない。中心市街地の空洞化の原因として、大型商業施設の郊外立地が挙げられるが、それは農業が立ちゆかなくなった農家が、農地の転用方法としてショッピングモールへの賃貸を選択した側

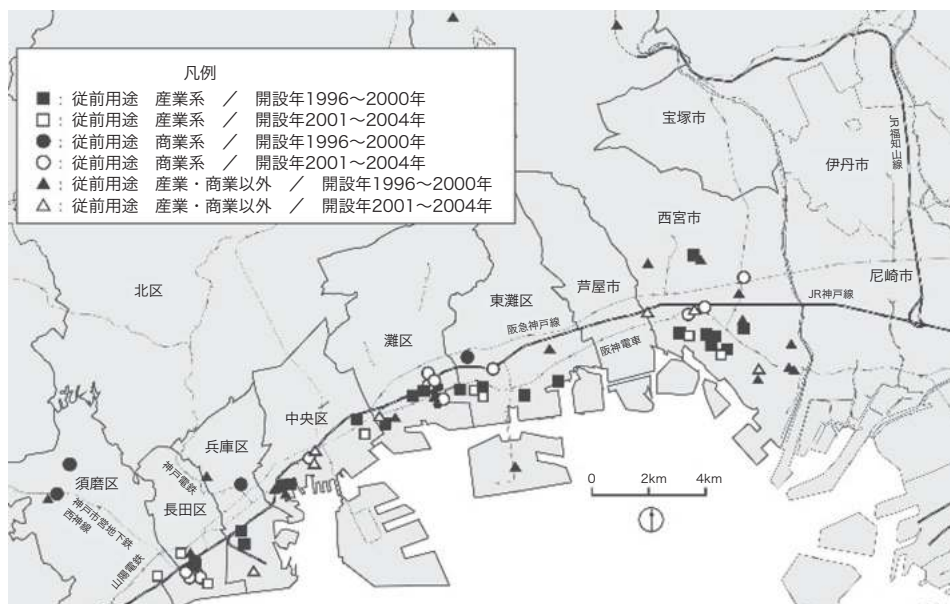
面がある。個別の用途規制による都市計画や出店規制では限界があり、企業や農家等の行動原理を経済の面から理解し、都市や地域の土地利用を総合的にマネジメントする政策が求められている。

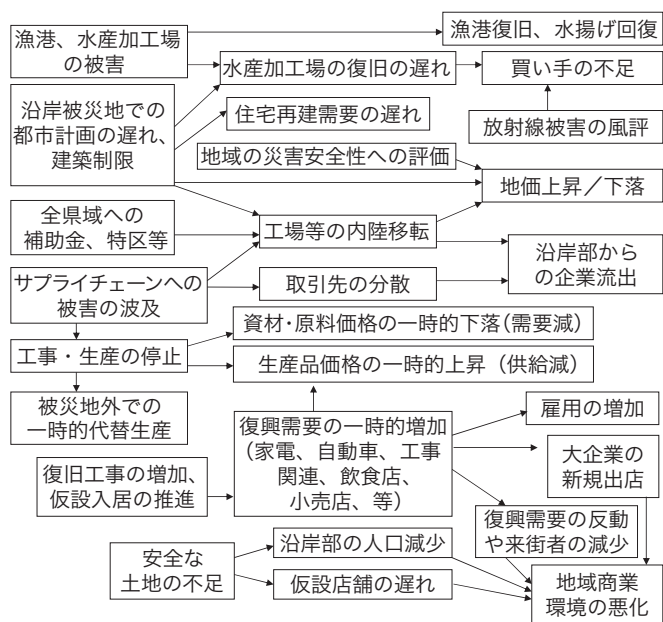
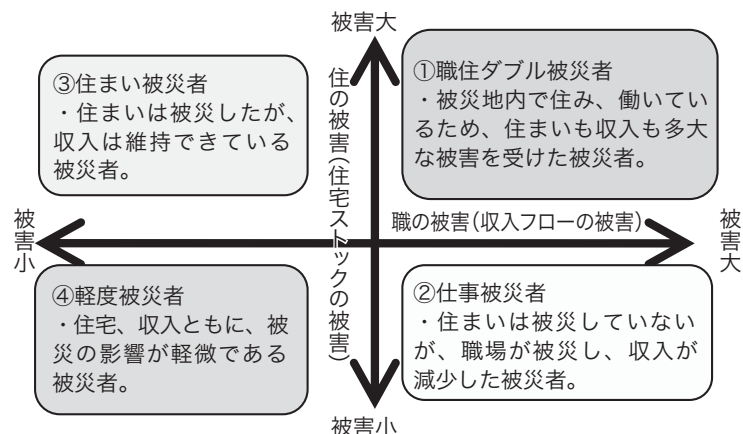
東日本大震災での地域と経済の関連性

前例のない広域巨大災害であった東日本大震災では、阪神・淡路大震災以上に広域的な産業被害の連鎖や産業とまちづくりとの相互作用がみられた。NKSJリスクマネジメントの調査³⁾では、サプライチェーン（取引関係の連鎖）の寸断による被害の波及は、製造業の50%、非製造業の35%で影響がみられ、電気通信機器や電子部品・デバイス・輸送機器など国際分業が進んだ業種では「海外への影響あり」とする企業の比率が50%を超えていた。さらに震度4以下の地域であっても「材料・部品の不足」がボトルネックとなった企業が63%と最多であり、地震の揺れが小さいエリアの企業にも被害が連鎖していったことがわかる。

また地震直後には、被災地から他地域への一時的な移転が顕著にみられた。例えば近畿地方は、東北・関東地域の製造、輸出を代替するため、半導体や化学光学機器などの地震後の輸出額が前年同月を大きく上回った。データセンターを関東地域外に移転する動きもあった。

一方、東北の被災地では、図5に示すように都市計画や復興事業等、様々な要因が複雑に関係しながら、産業被害の連鎖を発生させた。都市計画の遅れや被災地での建築制限は、水産加工施設の建設を遅らせ、漁港が復旧し

図4 阪神・淡路大震災から10年間の大規模小売店の出店状況²⁾

図5 東日本大震災後の経済被害の連鎖⁵⁾図6 住宅ストックと家計収入フローによる被災世帯の分類⁶⁾

ても魚の買い手が不足する事態を招いた。政府は、規制緩和や特別な支援の対象となる復興特区（東日本大震災復興特別区域）や中小機構が主体となって仮設店舗や仮設工場の設置を進める事業を展開し、さらに中小企業のグループに対する施設再建の補助（中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業）を行うなど、これまでにない斬新な産業支援施策を展開してきた。

これらは企業流出に一定の歯止めをかけることが出来たが、沿岸部だけでなく内陸部に立地する場合も対象となるため、復興事業が長引く被災地沿岸部を避け、あるいは将来の災害に備えたリスク分散のため、企業が沿岸部の高台や内陸部に工場やデータセンター等を分散させる動きを促進した。結果として、被災地では、津波で被災した市街地の地価が大幅に下がる一方、安全な高台や内陸部の地価が上昇している。また地域商業の被災や復興需要等を見越して、ホームセンターや家電の大手チェーンが東北地域に積極的に出店しており、阪神・淡路大震災と同様に、今後、地域商業が本格的に復旧していく過程での競争激化が心配される。

生活者の家計の被害と復興

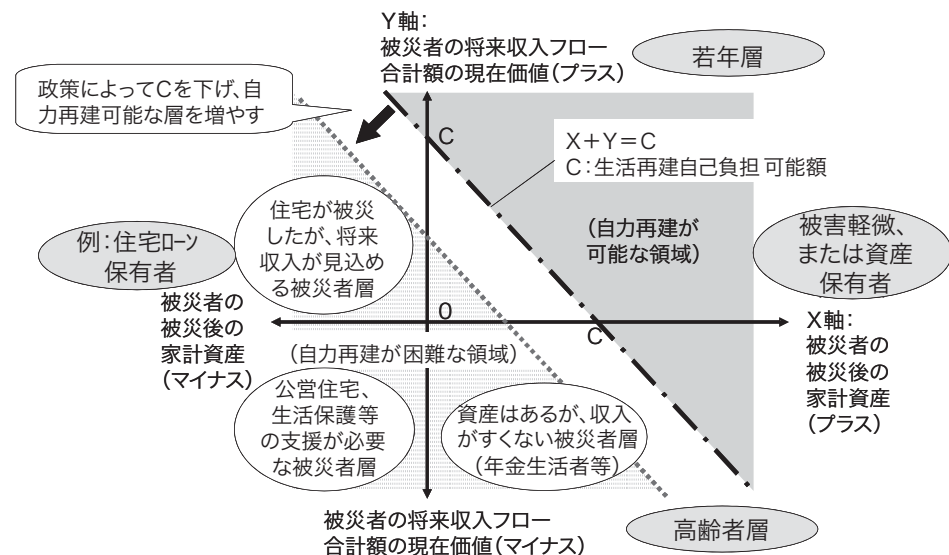
次に被災者の家計の被害と復興について考えてみたい。家計の被害は、大きく地震の揺れによる住宅等のストックの被害と、職場や

地域の被災により収入が減少するフローの被害に分けられる。家計の被害は、ストック、収入の二つの軸により図6の4タイプに分けられる。阪神・淡路大震災では住宅被害が大きかったが、大阪市に通うサラリーマン層の比率が高い被災地東部（東灘区以東）は「住まい被災者」の比率が高く、比較的収入への影響が少なかった。一方、被災地西部の長田区、兵庫区では、被災地に住み、そこで働く「職住ダブル被災者」の比率が高かったため、その後の生活再建に大きな問題を抱え、復興の東西格差を生む一因となった。

生活再建に対する家計の負担可能額（自助

の力）は、その人の被災後の資産額と、将来得られる収入総額により限界がある（図7）。例えば、代表的なストック被害である被災住宅の再建には、住宅ローン等による修繕・建替費用の確保が必要になるが、震災前からの住宅ローンで家計資産額がマイナスとなった被災者や、将来収入が見込めない高齢の被災者の場合には、自己負担は厳しくなる。

これらの被災世帯に対しては復興公営住宅の提供が一般的であるが、政府の財政も厳しい状況では、復興公営住宅が公的資金の最有効活用とも限らない。復興公営住宅建設費の枠内で、再建資金を被災者に直接助成した方

図7 収入被害と資産被害を考慮した家計の復興モデル⁷⁾

が有効な場合もある。

現在、被災者生活再建支援法に基づき、住宅が全壊した世帯には最大300万円が支払われる制度があるが、支給はストック被害だけが対象であり、仕事被災による収入減（フロー被害）は考慮されない。これは被災者の家計の実態とは乖離している。住宅被害に応じて一律に支給する「応家屋被害支給」ではなく、被災者の家計の自己負担可能額に応じて、不足分については公的負担で生活再建を進めるという「応能負担」への社会的なコンセンサスが必要であり、自力再建支援の強化やリバースモーゲージ（持ち家など不動産を担保とした融資制度。高齢者などが対象）の活用など柔軟で効果的な支援が求められる。

経済・経営に詳しい建築・まちづくり人材の育成に向けて

ここまで災害復興をケースとして、建築やまちづくりと経済の関係を取り上げてきた。近年、まちづくりや空き家・空き店舗対策などでも、建築と不動産事業、リスク管理、投資等を関連付ける出版物や活動が目立つようになってきた。プロパティマネジメント、アセットマネジメント、ファシリティマネジメント等とも呼ばれるが、住民や企業などの経済活動と地域社会、建築とをトータルで考えようとする動きは望ましい方向である。

これらの領域は、理論面では経済地理学として、主に土木・経済の分野の研究対象となっている。一方、実務の現場では、地域の不動産事業者が経済面から建築やまちづくりを考える専門家となっており、例えば耐震改修の促進や空き家・空き店舗の活用などの問題に対して、オーナーの相談相手になっている。

一方、建築系大学での専門教育では、まだこれらの動きに十分キャッチアップできていないように思う。現状、資産としての建築、経済活動の対象としての建築は、建築よりも不動産分野で取り上げられることが多いが、国内で不動産を体系的に学べるのは、著者の知る限り明海大学不動産学部・大学院不動産学研究科と日本大学理工学研究科不動産科学専攻のみであり、特に関西では存在しない。不動産業界は、不動産鑑定士や宅建などの公的資格があり、市場規模やジョブマーケット

も相当に大きいのが、その専門教育を行う大学、大学院の体制は寂しい限りである。

海外では、アメリカのコロンビア大学やマサチューセッツ工科大学（MIT）など著名大学を含む多くの大学で不動産開発等の大学院が存在している。表1にMITのカリキュラムを整理したが、建築、ファイナンス、経済、プロジェクト管理などを幅広く学ぶ内容になっている。日本の大学でも、このような専門人材の育成に取り組むべきであろう。

Core Courses ● Real Estate Finance and Investment ● Real Estate Economics ● Real Estate Development Products ● Real Estate Development Building Systems ● Real Estate Development Studio: Complex Urban Projects ● Real Estate Capital Markets ● Thesis Prep	Elective Courses ● Entrepreneurship in Construction and Real Estate Development ● Leadership in Real Estate ● Mixed-Income Housing Development ● Innovative Project Delivery in the Public & Private Sectors ● Real Estate Ventures I: Negotiating Development-Phase Agreements ● Real Estate Ventures II: Negotiating Leases, Financings & Restructurings ● Finance Theory ● Mortgage Securitization and Other Assets ● Tools for Analysis: Design for Real Estate and Infrastructure Development ● International Housing Economics and Finance ● Field Work: Real Estate
---	---

表1 MITにおける不動産開発修士のカリキュラム概要⁶⁾

おわりに

建築は、その資金調達や工事、運用のプロセスを通じて、社会や経済と密接につながっており、建築主にとって費用対効果や将来の社会・経済環境変化に対するリスクコント

ロールなどは最重要課題の一つである。にも関わらず、これらの問題は、経営コンサルタントやファイナンシャルプランナー、銀行、不動産事業者等の領域とされ、建築分野では積極的に取り扱われていなかった。

また、まちづくりの分野で、「住民参加」「住民主体」という言葉が使われるが、専門家としては、住民の意見を聞き、まとめるだけでなく、住民の生活、資金、相続などを含めたニーズを理解し、解決策を提案する能力が求められる。それには法律、税金、金融、経済など幅広い知識の裏付けが必要とされる。また建築主と社会全体の両者にとって良好な資産とするためには、地域の産業を含めた構造を理解する能力や、複数の主体が負担やリスクを分担する証券化やPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）等のスキームに精通することも大切である。

建築学と言う領域を考えた場合、過去の枠組みから大きく変わっていないばかりか、大学ではむしろ専門領域の細分化が進み、骨太さが失われてしまっているように思う。今後、経済活動や投資行動の側面から、建築と経済、社会、生活との関わりについて深く理解し、様々な提案が出来る専門家が育っていけば、日本の都市・地域の未来はもっと面白くなるはずと期待している。

（べにや しょうへい）

参考文献

- 1) 紅谷昇平「震災に備えた安全な地域を目指して ～住宅耐震化と帰宅困難者対策についての考察～」政策・経営研究 2008年2号（通巻6号），（2008），pp.157-171
- 2) 紅谷昇平，室崎益輝，北後明彦「阪神・淡路大震災後の商業復興と大規模小売店舗の進出状況に関する研究」日本都市計画学会学術研究論文集第40-3号，2005
- 3) NKSJリスクマネジメント「東日本大震災における被害実態と地震対策効果に関するアンケート調査結果」，2012
- 4) 紅谷昇平「東日本大震災における経済被害の全体像と連関性」地域安全学会東日本大震災特別論文集No.1，pp.99-100，2012
- 5) 紅谷昇平「復旧・復興対策の変化と課題 産業の再生」都市住宅学 88号，（2015），pp.38-41
- 6) 紅谷昇平「家計制約に基づく世帯の生活再建過程の柔らかな最適化」自治体危機管理研究Vol.6，pp.93-102，2010
- 7) 紅谷昇平「想定首都直下地震における住まい再建意向と家計復興モデル ―東京市民を対象としたwebアンケート調査結果より―」地域安全学会梗概集 No.29，pp.59-62，2011
- 8) マサチューセッツ工科大学Master of Science in Real Estate Developmentホームページより
<https://mitcre.mit.edu/masters-program/about-the-program/curriculum>

Member's Forum

会員投稿の頁



U-35委員会企画

「設計者のしごと」 ーU-35世代の担当プロジェクトよりー 活動報告

アートアンドアーキテクトフェスタ主催「U-35 Under35 Architects exhibition2016」の関連イベントとして、U-35 のこれまでの活動を紹介する展示企画と、「設計者のしごと」と題したトーク企画を行いました。

U-35委員会Facebookページ

活動内容やメンバーの雑感などざっくばらんに情報をアップしています。ぜひ一度お立ち寄りください。

<https://www.facebook.com/U35.aaj>

2016年10月23日（日）に、アートアンドアーキテクトフェスタ（AAF）が主催する「U-35 Under35 Architects exhibition2016」の関連イベントとして、展示企画とトーク企画を開催した。

展示企画は、これまで私たちが行ってきたtalk baton（インプットの活動）とaction（アウトプットの活動）を通して、そこで出会ったさまざまなフィールドで活躍している人々と、活動から得られた知見をパネル展示形式で紹介した。これまでtalk batonは10回、actionは3回開催しており、継続した活動が次第に蓄積され、活動目的である若手のプラットフォームづくりが少しずつ広がっていることを実感した。

トーク企画では、「設計者のしごと」と題して、私たちU-35 委員会のメンバーのうち7名が、自身の関わったプロジェクトを紹介し、設計の実務において大切にしていることや、プロジェクトを通して考えたことをプレゼンテーションした。グランフロント大阪・うめきたシップホール（大阪市北区）の会場には、大学生をはじめたくさんの来場者があり、充実したトークが展開された。プレゼンテーションを終えると、さまざまな質疑があがった。ランダムな開口部の設け方をどのように決めているのか、サイン計画について景観的にどう考えたか、斜面地に建設する際に環境的にどのような配慮をしたか等、学生たちから鋭い質問があり、発表者は少しどきどきしつつも、難しい問題に対してどのように考え、答えを探っていったかを説明し、議論した。

今回のイベントでは来場者にアンケートの回答をお願いした。参加者の約80%が大学生・大学院生であった。また、U-35委員会の認知度は約50%で、SNS等を通じてこれからも情報発信を活発に行っていきたい。さらに、約80%の回答者がU-35委員会の活動に参加してみたいと答えており、これからのU-35委員会の活動拡大が期待できる。

来場者からは、「これまで著名な建築家の作品しか見てこなかったが、身近にあるオフィスビルや病院等にも興味が湧いた。」や、「今回のような組織設計事務所やゼネコンの仕事を紹介する機会をもっと設けてほしい。進路を考える上でも参考になる。」等の感想をいただいた。

普段、私たちは、終業後にtalk baton等のイベント企画の打ち合わせを行っており、その中でお互いの仕事を掘り下げて語り合う機会はなかなか取れなかったのが、今回はメンバー同士にとっても新鮮な時間であった。また、来場者の方々と、自分の仕事を通してさまざまな意見を交わせたことは素晴らしい経験となった。

■活動紹介パネル展示2nd

2016年11月5日（土）・6日（日）に芝川ビル4階モダンテラス（大阪市中央区）で行われた、生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2016（イケフェス）の「日本建築協会創立100周年記念 プレ展示会」でも同様に、U-35委員会のこれまでの活動を紹介するパネル展示を行った。2日間で1000人を超える来場者があった。来場者からは、大阪木材仲買会館（第1回action「建築と木材」の会場）に行ってみたくといった声や、日本建築協会創立100周年イベントへの期待の声が聞かれた。



プレ展示会会場でのU-35活動紹介の様子



トーク企画の様子



来場者からの質疑にトークも白熱



終了後も議論は続く

「建築と社会」誌

特集一覧 ●1995～2016

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1995 vol.76	● 光がつくる 風合の世界	● 音一騒音から 播音/創音へ	● 飛騨・美濃 一まちの活性化 と地方文化	● トイレから 見た都市 文化	● トイレ空間	● 接合 ● コモタワー	● ユニバーサル デザインとは	● 私の空間 作法—会員 作品	● 新しい「都 市・建築」 の視点 *	● 建築構造と 社会の接点 ● 日建設計 *	● ライフライン と建築設備 *	● 第42回 青年技術者 ● 滋賀県建築課
1996 vol.77	● 阪神大震災 から学ぶ	● 大阪府住宅 供給公社創立 30周年記念 *	● 遠江—その 地方振興と 文化 *	● 立体駐車場 設備 ● 大建設	● 災害！非常時に 生きる法体系 ● OAPタワーズ *	● いま、プール が面白い	● 住まいの 未来像	● マルチ メディアが つくる世界	● キーコンセプト の新時代	● 最新の大規模 スポーツ競技 施設の設備	● 私の空間作法 '96 ● 九州の元気 ● りんくうの3作品	● 第43回青年技術者 ● 近畿地建営繕部
1997 vol.78	● 建築のロン グライフ化 をめざして	● 鉄ものがたり *	● 東海支部会員作品 ● 鈴沢・徳島—風土・文 化とともなう—建築*	● 創立80周年記念 /建築と私と社会 —80人の眼—	● 木造建築物の伝統 技術とその将来	● 住む空間の 復興—昔・新築の 運用と新たな展開へ— ● 住都公園関西支社	● 素材の不思議 ● 大阪ドーム	● 新エネルギー ● 住宅・都市 整備公団改 革への提言	● クロスワード 都市OSAKA *	● モザイク都市 の住む人たち ● 昭和設計 40周年	● 私の空間 作法 —会員作品—	● 第44回 青年技術者 ● 京都駅ビル
1998 vol.79	● 新しいまちづ くりの予感 ● 東畑建築事務所 創立65周年	● Concrete ● 九州とわたし、 そして建築	● 東海支部 会員作品 ● 信州—諏訪と その周辺—	● 街並みの演出— 最近の外構材料	● 生活環境の 安全・安心	● 地球環境 保全と建築	● 心と体を 元気にする インテリア	● 建築設備— ビルメンテナ ンスの立場から	● 建築への証 言 '98 —21世紀に 向けて	● ゆれをとめる 一たえる技術 からかわず 技術へ	● 私の空間作法 ● 2001年の医療 施設	● 第45回青年技術者 ● 駅とともに歩んだ 阪西日本の12年
1999 vol.80	● “らしさ” のデザイン ● 建築を緩どる 小粋なモノの出版人	● 大阪市都市 整備局	● 東海支部 会員作品 '99 北信濃—街並み 修景と地域文化 の再構築	● 都市の パブリック	● 関西建築界の流 れと東畑謙三の 足跡をたどる	● 大阪城天守閣 平成の大改修	● 改正建築基準法 —まちづくり・ すまいづくりへの 展開—	● 私の目でも 環境問題	● アーバンイン テリア—都市 空間としての インテリア	● 木とともに *	● 私の空間作法	● 第46回 青年技術者
2000 vol.81	● 21世紀のデザ インの動向を見る ● 安井建築設計事務 所創業75周年*	● 中国支那—しまな み海道と中国地方 の街づくり—	● 東海支部 会員作品2000 ● 越中・富山—地域文化 の振興と新たな 施設づくりの流れ	● こころを癒す 環境デザイン	● 測る—測定方法 と測定結果が 意味するもの—	● スケルトン& インフィル	● 改正建築 基準法 —パートII—	● 100年後への メッセージ ● 日建設計創業 100周年	● 来世紀に 引き継ぐ— わざ、もの、 こころ—	● 時間 *	● 私の空間作法 —会員作品— ● 21世紀の高齢 者の居住環境	● 第47回 青年技術者
2001 vol.82	● エス・ティ・ ティファニ ティーズ *	● 21世紀の建 築設計教育	● 東海支部 会員作品 ● 岐阜・大垣	● IT社会に おけるきず な	● 自然素材をめ ぐる「もの・ わざ・ひと」	● 成熟社会を ささえる まちづくり	● 現代の日本 の空間・文 化を探る	● 現場—近未来に 向けて —今できること— ● 大建設—作品特集 1996～2001—	● 建 築 の 力 都 市 の 力	● 緊張 ● 都市基盤整 備公団関西 支社	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第48回 青年技術者 ● NHK大阪放送会館 ・大阪歴史博物館
2002 vol.83	● 国土交通省 近畿地方整 備局営繕部	● 再生・リサ イクル	● 東海支部 会員作品 ● 愛知・名古屋	● 生活環境の安 全・安心 —パート2—	● 塗装の いろいろ	● 都市再生に向 けた建築基準 法集団規定の あり方	● いま、インテ リアデザインは ● 薄利リバーレ イス*	● 建築をささ えるセンサー	● 建築とボラ ンティア	● 時を超えて～ サステナブル エンジニアリ ングの現在～	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第49回 青年技術者 ● 大阪市中央 公会堂
2003 vol.84	● 東畑建築事務所 創立70周年	● 九州の地域づ くり・まちづ くり	● 東海支部 会員作品2003 ● 愛知・名古屋—他の 文化・芸術と建築— 街づくりを考える—	● サスティナ ビリティ—次世代に 引き継ぐ都市・建築・ 暮らしのデザイン—	● 建 築 と 五 感	● 都市計画及び 建築基準法 等の改正	● コンパジョ ン—インテ リアから発信す るまちなみ—	● 介護と建築・ 設備	● 建築とノスタ ルジー—建築の主 観的価値につ いて—	● 力と楽しくつ き合う方法	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第50回青年 技術者—青年 技術者顕彰 50年
2004 vol.85	● 大阪市住宅局	● 都市緑化	● 東海支部 会員作品 ● 愛・地球博 *	● 省リスクな 「まち再生」	● リニューア ルの技	● 地域住民主体 のまちづくり と支援制度	● Product Design+1	● 銭湯～心地 よさを求め て～	● 建築家とは 何か	● 巨大地震に そなえて	● 私の空間作法 —会員作品—	● 第51回 青年技術者
2005 vol.86	● 震災から 10年	● 「健やか」 ● 長崎医療 センター	● 東海支部 会員作品2005 ● 東海における施設づ くりへの新たな試み	● 建築の経済 化	● 住まい方 の変化	● 人工栽培	● 次世代に伝え る「木」の建築 ● 「建築と社会」 1000号記念	● 改正建築基 準法と景観 緑三法	● 火災から 守る	● 構造の過去 から未来へ	● 私の空間作法 —会員作品— *	● 第52回 青年技術者
2006 vol.87	● 都市環境デ ザインと参 加のまちづ くり	● 「地方空港の 時代」～まち と共存する空 港づくり～	● 東海支部 会員作品2006 十東海支部 特集3部作	● 都市再生の 本質～光と 影のはざま で～	● 変容する家 族形態とあ たらしいライ フスタイル	● 身近な省エネ ギー～エネルギー をたくわえ、有 効利用する～	● 設計図が伝 えるもの	● 建築物の安 全・安心	● 第53回 青年技術者	● 「セキュリ ティ」	● もしも… ～構造が未 来へつなぐ 夢～	● 私の空間作法 —会員作品—
2007 vol.88	● 光り輝く 京都の景観 まちづくり	● 学校新時代	● 東海支部 会員作品2007 十東海支部 特集3部作	● 創立90周年 記念—この 10年、これ からの10年	● あそび考	● こどわりの 創る住まい のカチ	● 住まいの設 備と空間の 移り変わり	● 建築系雑誌 が伝えるも の	● 建築基準法 等大改正	● 第54回 青年技術者	● ガラスを 考える	● 楽しい構造 の世界
2008 vol.89	● 私の空間作法 —会員作品—	● PFI事業、 その後 *	● 東海支部 会員作品2008 十東海支部 特集3部作	● まちづくり 2011年宣言	● 新ホテル物 語	● 設備に役立 つ地震対策	● 中国地方を歩 いて見えるもの ● 小林聖心女 子学院	● 建築と景観 を巡って	● 第55回 青年技術者	● 木造住宅を 巡って	● 建築において ROBOTが 活躍する日は 来るのか？	● 自然と戦う 構造
2009 vol.90	● 私の空間作法 —会員作品— ● 福岡電中・筑後一 瀬・中津と島新館—	● 水の都にぎ わいのある未 来に向けて	● 東海—TOKAI オムニバス	● 楽しい福祉	● 体 感 す る インテリア	● 建築空間が 求める空気 環境（空気 質）	● 建築と水	● 実用レベル で展開され る施工管理 のIT化	● 第56回 青年技術者 *	● 地域の歴史 資産を活か したまちづく り	● 第16回 会員作品特集 “私の空間作法”	● 構造家日記 ～頭の中を のぞいてみ たら～
2010 vol.91	● 創業110周年 記念特集 NIKKEN SEKKEI	● 建築とエコ 技術	● 東海支部復活 50周年記念号 東海—TOKAI オムニバス	● 食と建築・ 都市	● ホスピタリ ティのあるケ ア空間	● 太陽光発電	● 建築と石	● 再生・受け 継ぐ・繋がる *	● 第57回 青年技術者	● 建築ストック 社会の形成 への展望	● LED照明の活 用—将来を考 える～人・地球 への思いやり～	● 東京スカイ リ
2011 vol.92	● URBAN+近第一地地 ストック再生実証試験—ス トック活用時代の夜明け 第17回 会員作品 “私の 空間作法”	● BIMは設計 を変革する か？	● 東海支部復活 50周年記念号 東海—TOKAI オムニバス	● まちなかの サードプレイス	● 変遷する “身の置きど ころ”	● ECO～建築 設備が出来る ECO技術～	● 建築と土	● 鉄道駅に注 目する	● 第58回 青年技術者	● 火災に強い 建築を考 える	● コンクリート という素材	● 構造教育と 社会
2012 vol.93	● 自然災害に 立ち向かう 力を求めて	● 今、私が思 う「和」	● 東 海 支 部 特集	● 第18回 会 員作品 “私の 空間作法”	● 中国市場に 挑む	● ZEB ゼロ・エ ネルギー・ビルを 目指して—低炭素社会 の実現に向けて—	● 建築と窓	● 巨大地震に 備える	● 第59回 青年技術者	● 超高齢社会 に求められる 住まい	● 歴史的建造 物の保存活 用	● 身のまわり の 世 界 の 「構造」を探 る
2013 vol.94	● 東畑建築事務所 創立80周年 —35のまなざし ● 脱成長の時代を 考える	● “らしくない” 空間 ● 小特集 ● 中之島フエス ティバルタワー	● 東 海 支 部 特集	● 第19回 会 員作品 “私の 空間作法”	● コミュニティの “かたち”—人 と人のつながり を再考する—	● 無駄から見 える節電	● 第60回 青年技術者	● グランフロ ント大阪	● 素材として の建築	● 建築に携わ るものに求 められるこ と	● 木の街をつ くる	● 実験
2014 vol.95	● エリアマネ ジメントの 新展開に向 けて	● 融合する空 間—新た なる試み—	● 東海支部特集 ● 小特集 「[ABENO REBORN]」	● 第20回 会 員作品 “私の 空間作法”	● オフィスビ ル設備の変遷 とこれから	● オフィスの これから	● 第61回 青年技術者	● 建築と時間	● 省エネ・低 炭素のこれ から	● 大阪・上町台地・ ● 複層・高度化す る建築とその技 術について	● でっかいもの はすごいぞ	● 安井建築設 計事務所 90周年
2015 vol.96	● フォー・オー ールの時代に 向けて	● 場をつくる～ プログラムの 挑戦—リノベ ションのリアル	● 支 部 復 活 55周年記 念 東 海 支 部特集	● 第21回 会 員作品 “私の 空間作法”	● あかり・文 化・創造	● これからの 学びのかた ち	● 第62回 青年技術者	● 建築の価値	● 空き家と向 き合う	● 職人がいなく なる!!リノビ ックと10年後 に備えて	● 形態にあら われた構造	● 「図面」を変 える～BIMの深 化が誘う建設 プロセスの変 革～
2016 vol.97	● 都市の記憶 をたどって	● 非日常の棲 み処～寝泊 まりの進化	● 東 海 支 部 特集	● 第22回 会 員作品 “私の 空間作法”	● 人の移動・ 物の移動・ 情報の移動	● 第63回 青年技術者	● おもてなし と建築	● UR都市機構 西日本支社— 暮らし輝く先 駆けのまちづく り	● 人口減少 社会のまち づくり	● 見えないもの を語る—新た な技術による施 工管理・検査シ ステムへの展開—	● 構造を支 える人と技術 のつながり	● ボーダレス ～消失する 境界と拡張 する領域

*は号外

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は「建築と社会」に改題し、今日に至っている。

本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

おりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1,230円（税込・送料別途）。

企画広告

新製品レビュー

高機能単層シート 永久 ワックスフリーシート

高機能複層シート ワックスフリー コーティングシート



オデオンPUR施工例 PG-1545

株式会社サンゲツ

www.sangetsu.co.jp

サンゲツは多彩なデザインと優れた機能を持つ、壁紙や床材、カーテン、椅子生地などのインテリア商品をトータルで提供するブランドメーカーです。

多種多様なライフスタイルから生まれる様々なニーズに応えるため、13,000点を超えるインテリア商品をラインアップし、空間コーディネートの可能性を無限に広げます。

■ 本社

名古屋市西区幅下1-4-1
TEL 052-561-3111

■ 関西支社

兵庫県尼崎市西向島町111-4
TEL 06-6414-3311

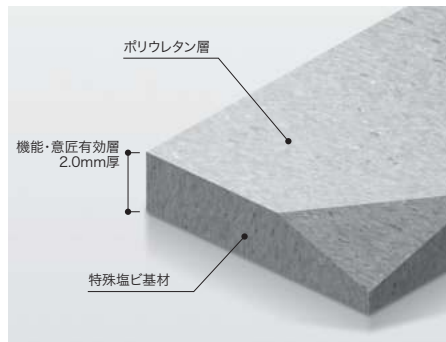
■ サンゲツ大阪ショールーム

大阪市北区梅田2-5-25
ハービス OSAKA 4F
TEL 0570-055-136

ワックスがけ不要の高機能床材

病院や福祉施設など歩行量の多い空間の床材には、ワックスがけやワックスの剥離作業がいらない、ワックスフリー床材がおすすめです。サンゲツは永久にワックスメンテナンスが不要な単層タイプと、表面にワックスメンテナンスが不要なコーティング層を有した複層タイプをご用意しています。用途やエリアに応じて使い分けられる2種類のワックスフリー床材で、メンテナンスの手間や時間とランニングコスト削減につながります。

WF 永久 WAX FREE 機能再生 高機能単層シート 永久ワックスフリーシート



製品寿命を通して、 ワックスがけが不要です。

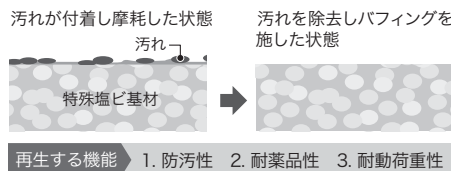
■ 緻密な単層構造による『高い防汚機能』

永久ワックスフリーシートは、粒子の細かい特殊素材を原料としているため、汚れや薬品が表面から入り込みにくく、汚れが付着してもシートの表面の拭き取りのみで除去できます。

※他の床材同様、初期メンテナンス・日常メンテナンスが重要です。

■ バフingで『何度でも機能が再生』

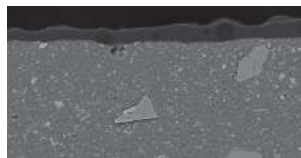
歩行などの摩耗によりシートの表面に凹凸や細かなキズが生じた場合でも、自動床洗浄機で汚れを除去し、表面を滑らかに整えることで、防汚機能が何度でも再生します。



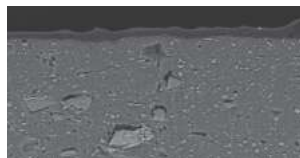
高機能の理由は緻密な単層構造

電子顕微鏡写真(400倍)

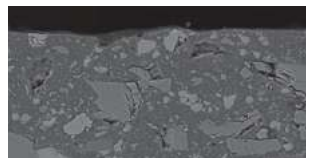
メガリット／グラニット



オデオンPUR



一般長尺シート



■ 環境負荷を低減

大量の汚水が発生するワックス剥離作業が発生しないため、環境負荷の高い廃液(汚水・剥離剤など)を最小限に抑制します。

■ ワックスメンテナンスコストを『大幅削減』

ワックスがけに伴う時間と費用も不要になり、コストを大幅に削減できます。

高機能単層シートなら 永久にワックスフリーでコスト削減

トータルコスト比較

例: 医療施設(2,000m²)の場合

■ イニシャルコスト(設計上代)

	一般長尺シート	グラニット
材料価格	3,300円/m ²	5,300円/m ²
工事その他費用	2,000円/m ²	2,500円/m ²
材料・工事単価	5,300円/m ²	7,800円/m ²
総費用(2000m ²)	1,060万円	1,560万円

※引き渡し前の初期メンテナンス費用は除く。

■ 年間ランニングコスト(実費)

	一般長尺シート	グラニット
日常清掃 *1	月額 90万円	90万円
	年間 1,080万円	1,080万円
定期清掃 *2	1回 20万円	0円
	年間 60万円	
剥離清掃 *3	1回 —	
	年間 53万円	
年間コスト合計	1,193万円	1,080万円

年間113万円の削減

*1: ダスタークロス・モップ(自動床洗浄機)による清掃(毎日1,000m²/人計算)

*2: 表面洗浄・ワックス2層塗布(3回/年)単価(100円/m²計算)

*3: ワックス剥離・ワックス2層塗布(1回/年)

※メンテナンス方法の詳細に関しては、弊社営業担当者までお問い合わせください。

再生する3つの機能

■防汚性

粒子の細かい素材を原料としているため、汚れが入りこみにくくなっています。

■耐薬品性

消毒液に含まれるアルコールや、次亜塩素酸などに耐久性があります。

■耐動荷重性

ストレッチャーや配膳車などが走行する場所でも、破損や膨れが生じにくくなっています。

商品ラインアップ

▶メガリット

ダイナミックな柄が新しい、高機能シリーズ。

▶グラニット

世界中で40年の実績を誇る単層ノーワックス床材の定番シリーズ。

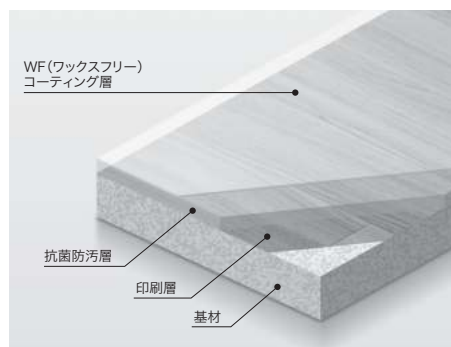
▶オデオンPUR

経済的で豊富なカラーバリエーションが人気のシリーズ。



高機能複層シート

ワックスフリーコーティングシート



**WAXをかけることなく、
美観を維持できます。**

■ワックスフリーコーティング層による

『高い防汚機能』

ワックスフリーコーティングシートは、表面にUV樹脂コーティングを施した複層シートです。このワックスフリーコーティング層（UV樹脂コーティング層）によって表面に汚れがつきにくく、表面の拭き取りのみで汚れが除去できます。

※他の床材同様、初期メンテナンス・日常メンテナンスが重要です。

■耐ヒールマーク性試験

JIS K 3920に準拠

	1.WFコーティング品 (UV樹脂コーティング)	2.一般品+WAX	3.一般品
未使用状態			
拭き取り前			
拭き取り後			

※上記データは当社基準による評価です。

■ワックスメンテナンスコストを『削減』

ワックスフリーコーティングシートは、ワックスフリーコーティング層の寿命を通じてワックスがけが不要になり、それに伴う時間と費用も削減できます。また、ワックスがけによる剥離作業が不要となるので環境負荷低減にもつながります。

ワックスフリーコーティング層には摩耗による寿命がありますが、WAX塗布品よりも耐摩耗性に優れています。ワックスフリーコーティング層が摩耗した場合は、ワックスメンテナンスへの切り替えも可能です。

商品ラインアップ

▶メディウォーク

全厚4.5mm、アンダーレイ不要の多機能フロアです。100Gをきる衝撃吸収性で万一の転倒時も衝撃を優しく吸収します。車いすやストレッチャーの走行性にも優れています。

▶エスリューム・ミスト/ファイバー/ルーミー

経済的で幅広い色柄が使いやすいシリーズです。ナチュラルな色柄と色調のやさしい表情が特徴です。

▶ナーシングフロア

2.0mmの発泡層付きシートで、転倒時の衝撃をやわらげます。

▶ストロング

木目、石目、抽象柄などデザインのバリエーションが豊富な重歩行シートです。

▶SKフロア

発泡層が付いた全厚2.8mm厚のシートです。



ナーシングフロア施工例 NU-1301

■ワックスメンテナンスサイクル例

	施工	6ヶ月	12ヶ月	18ヶ月
一般品	ワックス	ワックス	ワックス	ワックス
WFコーティング品	ワックスがけ不要!	ワックスがけ不要!	ワックスがけ不要!	ワックスがけ不要!

※上記は一例であり、使用環境により内容は異なってきます。



《商品掲載カタログ》

永久ワックスフリーシート、ワックスフリーコーティングシートはサンゲツの各種施設用フロア見本帳「2016-2018 S FLOOR」に掲載されています。

information

1 特別展
「古代ギリシャー時空を越えた旅ー」

ギリシャには古代、時代や地域によりさまざまな美術が花開いた。その中心は一貫して神々と人間の姿と物語であった。大理石を削って作った小さなキュクラデス偶像、幾何学様式の壺絵からマケドニアの美しい金製品、ほぼ等身大のヘレニズムの神像まで、歴史の変遷とともに見事なまでの多様性を目にすることができる。本展は、ギリシャ国内40か所以上の国立博物館群から厳選された300件を超える古代ギリシャの貴重な作品を展示する、日本がかつてない規模の試みである。



アレクサンドロス頭部
前340～前330年
アクロポリス博物館蔵
©The Hellenic Ministry
of Culture
and Sports-Archaeological
Receipts Fund

期 間 4月2日(日)まで
9:30～17:30 (土曜日は19:00まで)
※入場は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日 (ただし3/20は開館、3/21は休館)

会 場 神戸市立博物館
神戸市中央区京町24
TEL.078-391-0035

観 覧 料 一般1,500円、高大生1,100円、小中生600円
※小学生未満無料
※障がい者手帳等をお持ちの方は無料
※65歳以上で「神戸市すこやかカード (老人福祉手帳)」
をお持ちの方は一般料金の半額
※神戸市および隣接6市1町、篠山市、淡路3市、鳴
門市、徳島市の小中学生は「のびのびパスポート」
提示により無料

2 パロディ、二重の声
ー日本の一九七〇年代前後左右

1960年代中頃から日本のアーティストが頻繁に実践し、70年代に入るとテレビや雑誌などを通じて社会的に流行した「パロディ」。ありとあらゆる文化がパロディに染まったこの現象は、モダンとポストモダンの隙間に開花した徒花(あだばな)であったのか? 日本語として定着し、それでいてなお不明瞭なこのパロディという技術または形式を、当時の視覚文化を通じて振り返る。



横尾忠則《POPでTOPを1》
1964年頃、作家蔵

期 間 2月18日(土)～4月16日(日)
10:00～18:00 (金曜日は20:00まで)
※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日 (ただし3/20は開館、3/21は閉館)

会 場 東京ステーションギャラリー
東京都千代田区丸の内1-9-1
TEL.03-3212-2485

観 覧 料 一般900円、高大生700円
※中学生以下無料
※障がい者手帳等をお持ちの方は100円引き、
その介助者1枚は無料

3 竹中大工道具館企画展
漆彩讃歌ー石本愛子漆芸展ー

漆塗りの素地に文様を彫り金箔・金粉等を摺り込んで装飾する沈金(ちんきん)は漆工芸の伝統的な加飾技法のひとつである。漆芸家・石本愛子は沈金の伝統技術(ふししつぎ)を生かして、色彩豊かな伏漆彩沈金技法という新しい手法を確立した。

本展では、日本アルプスなどの情景を伏漆彩の技法によって表現したパネル作品やオブジェ、器などの作品を展示するほか、制作道具、工程を収録した映像を紹介する。



オブジェ「鼓響春棋」
興禅寺蔵

期 間 3月12日(日)まで
9:30～16:30
※入館は16:00まで

休 館 日 月曜日

会 場 竹中大工道具館
兵庫県神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL.078-242-0216

観 覧 料 一般500円、高大生300円
65歳以上の方200円
※中学生以下無料
※常設展観覧料を含む

information

4

企画展 祈りの美～

清水公照・平山郁夫・杉本健吉…

古都・奈良には、長い歴史とともに多彩な文化が育まれ受け継がれてきた。中でも、はるか1300年の昔、シルクロードを経て奈良へと伝えられた仏教文化は、奈良の歴史・文化を特徴づけるとともに日本の精神風土に深く浸透し、今日の造形表現にも大きな影響を与えている。

本展では、奈良にゆかりの深い三人の作家を取り上げ、連綿と続く「お水取り」をテーマとした作品を中心に、現代に花開いた祈りの美の世界を取り上げる。

絵画、書、陶芸など約200点からなる展示作品は、東大寺管主から自由闊達な表現活動へと活躍の場を広げた清水公照、仏教への篤い思いを通じてシルクロード周辺に取材し精神性を堪えた独自の絵画世界を構築した平山郁夫、そして創作活動の原点となった奈良を描き、信仰の世界へと関心を深めていった杉本健吉によるものである。三者三様の表現世界をご覧いただき、その根底で通ずる信仰の美・祈りの心に触れていただくと同時に、奈良の歴史・文化の奥深さを垣間見る機会となれば幸いである。

期 間 3月15日(水)まで

9:00～17:00

※入館は16:30まで

休 館 日 月曜日(ただし3/6・13は開館)

会 場 奈良県立美術館

奈良市登大路町10-6

TEL.0742-23-3968

観 覧 料 一般400円、高大生250円、小中生150円

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は無料

*65歳以上の方は無料



清水公照《紅富士》
昭和60年

5

ビアトリクス・ポター™生誕150周年

ピーターラビット™展

世界中の人々から愛され続ける「ピーターラビット」。その作者、ビアトリクス・ポターの生誕150周年を記念し、国内最大規模の展覧会を開催する。

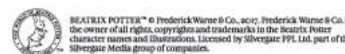
ビアトリクス・ポターは1866年7月、ロンドンで生まれた。幼少期から動物や植物のスケッチが大好きだったビアトリクスは、避暑地として家族と訪れた湖水地方の豊かな自然に出会い、生涯魅了され続けた。彼女の自然への深い愛情とまなざしはピーターラビットシリーズの世界観に色濃

く反映されている。ビアトリクスは絵本作家として得た収入をもとに念願だった湖水地方に移り住み、自然保護活動の先駆者、農場経営者としても活躍した。

本展は、英国ナショナル・トラストが所蔵する貴重な絵本の自筆原画やスケッチ、彼女の愛用品など200件以上の作品・資料が出品され、そのほとんどが日本初公開となる。社会で女性が活躍するのが難しかった当時、強い意志とあふれる才能で時代を切り開いたビアトリクスの人生に焦点をあてながら、『ピーターラビットのおはなし』の原点や絵本シリーズの世界を展覧していく。



ビアトリクス・ポター
『ベンジャミン バニーのおはなし』挿絵
英国ナショナル・トラスト所蔵



BEATRIX POTTER™ © Frederick Warne & Co., 1897. Frederick Warne & Co. is the owner of all rights, copyright and trademarks in the Beatrix Potter character names and illustrations. Licensed by Silvergate PPL Ltd, part of the Silvergate Media group of companies.

期 間 2月11日(土)～4月2日(日)

10:00～18:00

※入館は17:30まで

休 館 日 2/19

会 場 グランフロント大阪 北館

ナレッジキャピタル イベントラボ

大阪市北区大深町3-1

TEL.050-5542-8600 (ハローダイヤル)

観 覧 料 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円

*未就学児は無料

*障がい者手帳等をお持ちの方とその介助者1名は半額

本欄掲載の1～5の美術館等の招待券ご希望の方は、電話等で申し込み後、招待券送付用の切手(82円)を日本建築協会事務局までお送りください。

日本建築協会

月間の動き

平成28年12月

理事会等

第8回常任理事会

12月21日（水）16：30～20：30
日本建築協会会議室
出席者 香西会長ほか8名
議 事（1）100周年記念事業
（2）平成29年度常任理事会・理事
会・総会・評議員会日程
（3）「建築と社会」新企画

編集委員会

第9回広告企画・編集合同委員会

12月9日（金）17：00～17：40
日本建築協会会議室
出席者 勝山委員長ほか4名
議 事（1）1月号特集 「ニュータウン
から学ぶこれからの「計画」
（仮）
（2）2月号特集 私の空間作法
（3）3月号特集 100周年記念号
（4）4月号特集 東海支部特集
（5）5月号特集 建築設備の伝統
と革新
（6）広告依頼先検討

第9回「建築と社会」100周年記念号編集委員会

12月9日（金）17：50～19：05
日本建築協会会議室
出席者 勝山委員長ほか5名
議 事（1）企画の検討
第1回建築計画系分科会
12月20日（火）19：15～21：10
隠れ家個室×肉バル 美味門～UMAIMON～
梅田店
出席者 樋口幹事ほか6名
議 事（1）2016年特集を振り返って
（2）今期分科会運営について
（3）2017年度特集の企画

第8回設備分科会

12月7日（水）18：05～19：25
日本建築協会会議室
出席者 橋本幹事ほか8名
議 事（1）「設備の頁」の企画
（2）2017年度特集の企画

第8回法令分科会

12月21日（水）14：00～15：30
日本建築協会会議室
出席者 磯林幹事ほか4名
議 事（1）法令コーナーの企画
（2）2017年度特集号の企画

第8回作品作風小委員会

12月14日（水）19：00～20：00
日本建築協会会議室
出席者 稲垣委員ほか3名
議 事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況、予定の報告
（3）gallery掲載報告、予定
（4）その他

事業委員会

第11回U-35小委員会

12月14日（水）19：00～
鹿島建設プレゼンテーションルーム
出席者 興津リーダーほか7名
議 事（1）活動／予定
（2）次回予定

第12回U-35小委員会

12月27日（火）19：00～
竹中工務店会議室
出席者 興津リーダーほか4名
議 事（1）活動／予定
（2）次回予定

出版委員会

第8回出版委員会

12月27日（火）18：00～19：30
日本建築協会会議室
出席者 西委員長ほか8名
議 事（1）既刊書籍経過報告
（2）制作進行中の書籍
（3）今後の出版テーマ
（4）講習会の企画
（5）100周年記念式典の企画

教育委員会

第2回工高生教育小委員会

12月22日（木）18：00～19：00
日本建築協会会議室
出席者 谷口小委員会委員長ほか4名
議 事（1）第62回工高生デザインコン
クール実施報告
（2）第62回工高生デザインコン
クール募集規定検討
（3）次年度の審査委員長並びに審
査委員の委嘱
（4）年間スケジュールの変更提案
検討

大阪府住まい・まちづくり普及協議会

第9回全体会議

12月16日（金）10：30～12：00
大阪建築会館会議室
報告・議題
（1）（一社）住教育推進機構
（2）出前講座の実施
（3）次年度組織体制
（4）その他・次回の日程

100周年関連事業委員会

第6回史料研究会

12月13日（火）18：00～20：05
日本建築協会会議室
出席者 山形委員長ほか3名
議 事（1）100周年記念誌
第9回10年委員会
12月19日（月）18：40～19：25
日本建築協会会議室
出席者 設楽委員長ほか5名
議 事（1）学生のための見学会
（2）朝日生命館イベント実施検討

100周年記念事業委員会

第9回幹事会

12月21日（水）16：30～20：30
日本建築協会会議室
出席者 設楽委員長ほか6名
議 事（1）100周年記念事業

見学会

創立100周年フレイイベント「近代建築見学会 ー大阪の都市景観 再見ー 中之島WALK」

12月10日（土）13：30～16：30
講 師 山形 政昭氏（大阪芸術大学教授）
酒井 一光氏（大阪歴史博物館主任
学芸員）
委 員 情報見学小委員会 中尾委員ほか
3名
参加者 28名

懇親会

2016年建築関係団体合同忘年懇親会

12月16日（金）18：00～19：30
太閤園
参加者 220名

編集委員会（平成28年度）

■副会長

設楽 貞樹
本多 友常
■編集担当理事
◎勝山 太郎
佐藤 榮一
杉本 浩
竹中 統一
西 博康
松崎 公一
松本 眞一
吉村 英祐
米井 寛

■副委員長

○戸川 勝之
■特集小委員会
■計画分科会
★計画系
飯田 匡
鈴木 克彦
△田中 直人
松田奈緒子
三宅 次郎
守井 辰
吉村 英祐

★建築計画系
神戸 嘉也
桑原 悠樹
下坂 浩和
△中辻 浩介
東 拓郎
樋口 展寛
松岡 英緯
三谷 帯介
米山 剛史
渡部 剛

★インテリア・住宅系
今井 充彦
川合 隆之
工藤 理隆
△黒柳 亮
齊藤 誠
塚口 洋之
ペリー史子
間渕 一博

■構造分科会

伊藤 栄治
岡田 健
岸本 光平
司馬 勢也
瀧野 敦夫
角田 耕一
橋本 宗明
△宮久保秀樹
向井 洋一

■設備分科会

有尾清二郎
北野 勝也
佐々木章二
笹倉 睦
高村 聡
寺井 千佳
夏井 重行
△橋本 直樹
藤原 謙一
桝井 貴廣
宮崎ひろ志
森山 正和
山本 雅洋

■施工材料分科会

△東 琢
木谷 在憲
桜井 和男
高橋 秀一
藤丸 啓一
山口 紀宏
吉田 正友

■法令分科会

△磯林 雅之
岡本 亮二
黒川 正樹
河野 学
小林 智成

■作品作風小委員会

東井 嘉信
居内 章夫
池上 明
稲垣 和江

▲加嶋 章博

菊池 浩輔
倉渕奈千子
澤田 純一
高木 秀晃
鞆野 淳司
豊田 充広

西田 佳代
芳谷 晴彦
平野 尉仁
増田 敬彦

■広告企画小委員会

小川 雄介
小山 昭
金築 雄
野山 将男
藤田 昌宏
▲前田 衛
山辻 直樹

（順不同）

◎委員長

○副委員長

▲小委員会委員長

△幹事

印 刷 2017年1月27日
発 行 2017年2月1日
発 行 人 一般社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電 話 06-6946-6981
印 刷 所 榊中島弘文堂印刷所
デザイン 多田正治（多田正治アトリエ）
定 価 1230円（税込）

お客様の抱える問題やニーズに
より速やかに、より丁寧に対応するために

企画・デザイン、制作、製版、印刷

株式会社 中島弘文堂印刷所

本社 〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号
TEL.06-6976-8761/FAX.06-6976-8765

東京支社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1丁目4-2 風雲堂別館ビル2階
TEL.03-3526-5580/FAX.03-3526-5582

<http://www.n-kobundo.co.jp/>

地球環境を守り、100年建築に貢献する

NACL のアルミ表面処理
株式会社日本電気化学工業所

<http://nacl.jp> E-mail: sc@nacl.co.jp

本部営業部 〒560-0036 大阪府豊中市蛍池西町2丁目7番26号 NACLビル2階

TEL (06)6843-1235(代) FAX (06)6853-1632

東京事務所 〒111-0051 東京都台東区蔵前2丁目6-7

TEL (03)3862-0978(代) FAX (03)3862-7098

《プロのノウハウ》

建築現場のコンクリート技術

柿崎正義・玉水新吾 著 日本建築協会 企画

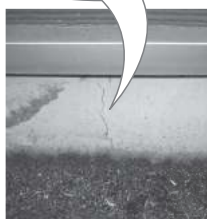
四六判・220頁・本体 2000円＋税

ポイントを
わかりやすく解説。

「そこが
知りたい！」

発注から品質管理、
調合（配合）、打込み、
劣化・検査と維持補修まで、
仕事の流れにそって

乾燥収縮ひび割れ



エフロレッセンス



結露



よくある
工事のトラブル
事例集付き



学芸出版社

〒600-8216
京都市下京区木津屋橋通西洞院東入

Tel 075-343-0811
Fax 075-343-0810

<http://www.gakugei-pub.jp/>
E-mail info@gakugei-pub.jp



WF
WAX FREE

永久
機能再生

高機能単層シート
永久ワックスフリーシート



WF
WAX FREE

高機能複層シート
ワックスフリーコーティングシート

ワックスフリーで美観を維持。

WF
WAX FREE

- ワックスメンテナンスコストと時間を大幅削減
- 剥離作業不要だから廃液抑制で環境にやさしい

ランニングコスト削減

時間削減

環境対応

2016-2018
SFLOOR



sangetsu
Joy of Design

株式会社サンゲツ www.sangetsu.co.jp